はじめに

ゼネラルマネージャー　菅野 勇希
(行政政策学類 4 年)

東日本大震災から 5 年の月日が経ちました。今年度も沢山の方の支えがあり活動することが出来ましたことを、この場を借りて御礼申し上げます。

今年度は仮設住宅から復興公営住宅などへ移るといった生活の変化がとても多く感じられました。それ故に私たちも活動を通す中で沢山の悩みが生まれました。新しい場所で生活を始められた方に対する関わりを継続することはもちろんですが、仮設住宅に残った方への関わりも同じく重要視しなくてはなりません。その中で今年度から新しく取り組んだのが「いるだけ支援」です。「若い人の声が聞こえないと寂しい」「ご近所さんが移って行って寂しい」、活動を通す中で聞こえた声がもとになって生まれた活動です。”空き部屋の目立つ仮設住宅に学生が住み、1 人の住民として生活をする”、ただそれだけ。しかし、学生が“いるだけ”で見えてくるものがあります。私たちは主に週末にお邪魔して活動を続けています。そのため、日々の生活の中に学生が入るということは今まではありませんでした。この「いるだけ支援」では住民の方の生活に四六時中かかわることができ、本当の意味で 1 人 1 人と関係を構築することが出来るようになっているのではないでしょうか。

私ごとになりますが、私は福島大学での 4 年間をこの災ボラで過ごしました。原動力となったのは活動先で出会う方の笑顔です。「誰かの笑顔のために」という想いで自分なりに自分の方法でたくさんの方と関わり続けてきました。震災当時、高校 2 年生だった私は自分のことで精いっぱいでした。安否確認もままならない状態で、家族と離れ離れで 1 週間ほどを体育館で過ごし、再会した後も 3 か月ほどの体育館での生活。発災翌日に家があったところに行くと、3 月 11 日の朝までに見ていた姿はなく想像を絶する光景が広がっていたのを今でも鮮明に覚えています。体育館で生活している中で出会ったボランティアの方に憧れたのが、私が福島大学に進学すること、そして大学でボランティアをするという志の原点となり、これまで活動を続けてこられました。そして、卒業してからも時間を見つけて仮設住宅や復興公営住宅などに足を運び続けたいと思っています。

今後はさらに地道な活動が重要になってきます。専門性を持たない学生という立場の者たちがどのように取り組んでいけるのでしょうか。東日本大震災を自分事として捉えることが出来る人も減少してくるでしょう。大切なのは「東日本大震災から〇年」という事実を毎年のように確認することではなく、「東日本

大震災があった」という事実を 1 人 1 人が忘れないことだと思います。震災から 5 年 10 年という言葉だけでは表すことの出来ない苦労や想いがそこにはあります。「節目」という言葉で区切ることのできない人も多いと思います。6 年目に入り、震災を取り扱う報道も減少してくることと思います。しかし、私たちは「被災地にある大学」としてこれからも向き合い続けなくてはなりません。5 年前に始まり今も続いているという意識を持ち続け、これからも学生にできる範囲で被災地と関わり続けていく、そんな団体であってほしいと思います。

この報告書は、新たな悩みを抱え、模索しながら走り続けた成果の 1 つ 1 つです。それぞれの活動に様々な想いが込められています。これを手に取った方にとって「福島を感じる」1 つの助けになっていただけたらと思います。

目次

はじめに

1．津波被災現場、原発災害・地区再編自治体での復興支援活動
　1－1．南相馬市小高区復興支援ボランティア
　1－2．南相馬市小高区学習支援フリースペース
　1－3．被災地視察

2．仮設住宅・民間借上げ自治会への協力、住宅交流活動
　2－1．季節イベント
　2－2．足湯活動
　2－3．富岡町さくらサロン
　2－4．健康体操サロン
　2－5．いるだけ支援

3．帰還地域でのニーズ対応、コミュニティづくり活動
　3－1．田村市都路地区での人事交流事業

4．福島の子どもたちの健全な交友づくりサポート
　4－1．第 3 回 集まれ！ふくしま子ども大使
　4－2．福島子ども大使 NEXT～おうちにおいでよ～

5．子どもの力支援、子どもの発達・遊び支援
　5－1．ふくしま子どもネイチャリングキャンプ 2015
　5－2．米沢日帰りリフレッシュプロジェクト
　5－3．浦和レッズハートフルサッカー

6．福島元気発信活動
　6－1．天満音楽祭

7．災害に関する他団体・企業との共同活動
　7－1．繋ぐ～KYOTOHOKU～
　7－2．よさこい交流会
　7－3．炊き出し活動

8. 登録者フォローアップ事業
　8－1. 災ボラウィーク 2015

9. 避難所同窓会の企画
　9－1. 避難所同窓会

10. これまでの活動一覧

11. メディア掲載履歴

12. 決算報告

おわりに

１.被災地現場、原発災害・地区再編自治体での復興支援活動

1-1. 南相馬市小高区復興支援ボランティア

津波被災地域での活動（南相馬市小高区）

【概要】

福島県南相馬市小高区は、原発事故発生以降、避難指示が出ていたが、2012 年 4 月に警戒区域解除となり、現在は少しずつふるさとへの帰還に向けた準備を進めている。

福島大学災害ボランティアセンターでは 2013 年より、NPO 法人災害支援ボランティアネットが運営している「南相馬市ボランティア活動センター」にコーディネートをして頂く形で、南相馬市小高区でのボランティア活動に取り組んでいる。この活動は南相馬市ボランティア活動センターに寄せられた様々なニーズに対して少しでも力になりたいとの思いで、福島大学からの参加者を募り現地へとコーディネートすることで活動を行なってきた。

【活動日時・活動人数】

6 月 7 日（日）　：10 名
6 月 21 日（日）　：11 名
7 月 11 日（土）　：5 名
9 月 27 日（日）　：6 名
11 月 28 日（土）　：16 名
2 月 27 日（土）　：2 名
3 月 5 日（土）　：7 名

【活動内容】

瓦礫撤去・住居の荷物出し・農地整理など

【参加者の声】　川村 由宇（共生システム理工学類 2 年）

作業対象物が一般的なごみから重機までと幅広く、多少大変さも感じましたが、作業を終えた後は素晴らしい達成感がありました。しかし、私が初めて小高区を訪れたこともあってか、何年も住人の方がいらっしゃらない、がらんとした母屋の横での作業にはどこか寂しさが感じられました。また、自然豊かで穏やかなこの場所に人が住んでいないのはなんだかもったいないなあと思いました。ボランティアのニーズがまだまだあると感じたのでもっと多くの人に参加して

もらいたいです。小高では所々で綺麗な梅の花が咲いていました。外でも活動しやすい季節になりつつあるので、これから活動回数が増えていけばいいなあと思います。

【活動写真】

1-2. 南相馬市学習支援フリースペース

【概要】

震災から 5 年が経過した現在も南相馬市小高区の小中学生は仮設校舎での授業を続けている。特別教室は無く、校庭や体育館も間借りして、毎日の生活を送っているという現状である。そこで、長期休業を利用し学び&遊びの場を設け、少し年の離れた大学生との関わりの中で子ども達の心身のリフレッシュや勉強に対する意欲を高められればと小高区小・中学校児童生徒親の会が企画し、災ボラで協力した。保護者の方や参加してくれた小中学生からの評判も良く、2015 年の冬の開催で 8 回目を迎えた。

【期間】 夏季休業　8 月 1 日(土)～10 日(月)　　計 10 日間
冬季休業　12 月 22 日(火)～27 日(日)　計 6 日間

【場所】 南相馬市鹿島区万葉ふれあいセンター
小高小学校仮設校舎

【協力・共催】 小高区小・中学校児童生徒親の会

【活動人数】

夏季 福島大学 4 名、明治大学 14 名、城西国際大学 2 名、京都女子大学 2 名
立命館大学 1 名、京都薬科大学 1 名、宮城教育大学 1 名、
大学院生・社会人など 10 名　　計 35 名

冬季 福島大学 6 名、京都女子大学 1 名、明治大学 3 名、京都薬科大学 2 名
東京女子大学 1 名、立命館大学 1 名、大学院生・社会人など 7 名
計 21 名

【内容】子どもたちの学習・遊び支援

夏季

・野外活動@南相馬ソーラー・アグリパーク（2 日）
・クラフト（8 日）
・スイカ割り（10 日）

冬季

・アトリエ（22 日～27 日）
・お菓子作り、クリスマス会（25 日）
・餅つき（27 日）

【参加者の声】　掛下 志保(京都女子大学４年)

初めてフリースペースに参加したのは２年前でした。その時は私にとって、ここにいる子どもたちは『震災を経験した可哀想な子たち』でした。イメージとして、完全にマイナスでした。だから、楽しくて幸せなキャンパスライフを送っている自分が明るいことや楽しい未来をおすそ分けして、この子達が元気にしっかり歩いていってくれたら、なんて思っていました。ところが今回、自分の中にはそういう想いの起こり方が１mm もなかったなあ、と振り返っています。

この子たちにとって、当たり前とはなんなのでしょうか。小学生から高校生までの子どもたちが来てくれます。震災をどのように経験し、どのように捉え、今に至っているのかは一人一人違うと思うのですが。この子たちは、何か、大切なものを知っていて、なおかつ、それを大切にするという感覚があるのではないのかな、と感じました。みんなは遊び、勉強し、笑っていただけのはずですが、理由は分かりませんが、私はそんな普通にありそうな光景に涙が少し出てしまいました。

南相馬市の子どもたちにとって、大学生と関わるということはとても特別なことになり得るのかもしれません。その想いが行動となって、素直に表れた結果、何か私にできることをしようと思うようになりました。今回は、私にとっても挑戦であった、アトリエの企画をさせてもらいました。これまでもおどり企画などいろんなことをしてきましたが、今考えると「やってあげる、やってあげたい」といった上から目線な想いが強かったように思います。おどり企画は、絶対楽しんでもらえる！とも思っていました。自分が大学生活で、一番楽しいことだったので。でも、アトリエは、準備もまともにできず、ちゃんと楽しんでもらえるのだろうか、ただ自分がしたいだけなんじゃないか、などの不安がいっぱいでした。それでもできたのは、他ならぬフリースペースだから、であって、それが楽しんでもらえるかどうかよりも自分がやりたいことをやる、ということを許容してもらえると信じていた自分がいました。自分が取り組んでいたら、やってみたい人が来る、みたいな感じで、今までとはみんなとの楽しみ方も違いましたが、終わった時に、これもありか～って思ったことを覚えています。大人子ども関係なく、また、一斉にやったら興味なさそうな子がちょびって来てくれたり、熱心に取り組んでくれたり、誰かが一緒にしてくれる、というのはとても嬉しかったです。クリスマスツリーは傑作です。6 年生女子は、お片づけなども率先してやってくれてとっても助かりました。

参加 5 回目の今回、今までで一番、子どもたちが、いきいきとしていたことは間違いないと思いました。それだけ、みんなのことを感じられたことも、とても嬉しく思います。

社会人になったら、また、未来が魅せられるような女性になりたいと思いま

す！立場は変わるけど、ずっと掛下志保(ばすこ)と関わってくれたらめっちゃ嬉しいなって。みんなのお姉さんみたいな存在でいたいです。私にもそういう存在の人がいっぱい、いるから。
ありがとうございました。こらからもよろしくお願いします！

【活動写真】

1-3. 被災地視察（浪江町）

【概要】

東日本大震災が発生し、それと同時に、東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生した。住民は避難生活を強いられ、原発から 20 キロ圏内の地域への立ち入りの規制が出され、現在も避難指示が継続している地域もある。その後、除染活動による放射線量の減少に伴い、町ごとに区域再編が行われている。

浪江町は 2013 年 4 月に区域再編が行われ、避難指示解除準備区域、居住制限区域、帰還困難区域の 3 つに再編された。福大災ボラでは、浪江町から避難し、現在は福島市内の仮設住宅に避難している熊田さんにご協力をいただき浪江町の視察を行った。

【日時】　2 月 13 日(土)

【参加人数】
- 福島大学　2 名
- 高知工科大学　1 名
- 熊田伸一さん(案内人)
- 菅野信雄さん(案内人)

【視察地】　福島県浪江町

【視察場所】
- 請戸地区
- 浪江駅周辺
- 川添地区

【参加者の声】

○佐々木 翔太郎(経済経営学類 1 年)

初めて自分は浪江町を訪れたが、時が止まり続けているように感じた。訪れた請戸地区は何もなくて、震災の時をそのまま伝えていると感じた。

中学生の時に震災の沿岸を訪れたのだがその時を思い返すようで、改めて復興とはなんなのかと考える機会になった。これからも、訪問できる機会をいただけたら、訪問して震災当時とどう変わっていったのかを見つけられたらばと思う。

【被災地の写真】

○2016 年 2 月 13 日　浪江町請戸地区

津波被害を受けた墓地

請戸小学校

体育館

津波被害を受けた家屋

2. 仮設住宅・民間借り上げ自治会への協力、住民交流活動

【概要】

震災から 5 年が経過したが、いまだに福島県の仮設住宅では、自分たちが住んでいた土地に戻れる見通しが立っていない。福島大災ボラでは、1 年目はコミュニティ形成の支援、2 年目は自治会の自立の支援を主な活動理念としてきた。3 年目は、今までの理念を継承しつつ、支援を行ったりすることでより住民の方と学生との交流を深めていくことを行った。4 年目になると仮設住宅に住まわれている住民の減少により、さらに高齢化と孤独化が進んでいった。5 年目は、復興住宅等への移転が本格的になり、住民の方の数も減少し、仮設住宅の空き部屋が増加している。それに伴い、今まで築いてきた隣人とのコミュニティの喪失、転居増加による自治会運営の弱体化が深刻化している。そのためイベントの減少・コミュニケーションの減少がおこり、このような問題を解決するためには、継続的かつ住民の方のニーズに応え、寄り添っていくことが必要である。そのため仮設住宅に何度も足を運び、住民の方とのコミュニケーションを図り、ニーズに応えた行うことが重要であり、住民の方同士や学生と住民とのつながりを強くしようと活動を行ってきた。

季節に合わせた季節イベントや、住民の方との会話を大事にする傾聴ボランティアの足湯活動、健康体操サロンの「JOYBEAT」をはじめ、今年度から学生が仮設住宅に住み一住民として支援を行う「いるだけ支援」を行った。

2-1. 季節イベント

【概要】

福島大災ボラでは、四季折々に合わせた季節イベントを自治会と協力して開催している。仮設住宅、民間借り上げ自治会の自治活動を促進、復興住宅等への移転が本格的に進む中でのコミュニティ喪失を防ぐため行っており、、また、単調な生活への刺激という意味でも住民たちからも喜ばれている。

【内容】

春季	夏季	秋季	冬季
・お花見会	・夏祭り	・芋煮会	・クリスマス
	・夕涼み		・望年会
	・BBQ		・新年会、もちつき大会

随時

・親睦会、交流会　・お食事会　・運動会

【活動内容】

春季

親睦、懇談、折り紙、おにぎり、料理

夏季

親睦、懇談、流しそうめん、かき氷、焼き鳥、バーベキュー、すいか割り、わたあめ、露店（水ヨーヨーつり）、ビンゴ大会

秋季

親睦、懇談、芋煮、おにぎり、カレー、ビンゴ大会、折り紙、カラオケ大会

冬季

親睦、懇談、もちつき、カラオケ、プレゼント配布、料理

【活動日時・活動場所・活動人数・プレイスリーダー】

春季

・4 月 18 日(土)：上野台仮設住宅：9 名：狗飼小花

夏季

・8 月 8 日(土)：旧松小跡地仮設住宅：9 名：畠山幸一
・8 月 22 日(土)：まつかわ・いいたて合同夕涼み会：6 名：谷井晴香
・8 月 23 日(日)：南矢野目仮設住宅：12 名：小島望
・8 月 29 日(土)：笹谷東部仮設住宅：10 名：藤田真慧

秋季

・10 月 18 日(日)：上野台仮設住宅：11 名：狗飼小花
・10 月 25 日(日)：杉内仮設住宅：18 名：畠山幸一
・11 月 3 日(火)：安達運動場仮設住宅：10 名：鈴木悠平
・11 月 7 日(土)：北幹線第一仮設住宅：17 名：佐々木海都
・11 月 8 日(日)：笹谷東部仮設住宅：12 名：深谷怜
・11 月 8 日(日)：旧飯野小跡地・旧明治小跡地仮設住宅：16 名：三浦恒彦

冬季

・12 月 5 日(土)：松川第一仮設住宅：6 人：小島望
・12 月 6 日(日)：石神第一仮設住宅：7 人：畠山幸一
・12 月 22 日(火)：笹谷東部仮設住宅：7 人：小島望
・12 月 23 日(水)：松長近隣公園仮設住宅：5 人：深谷怜
・12 月 23 日(水)：塩沢仮設住宅：4 人：片瀬俊一
・12 月 27 日(日)：杉内仮設住宅：3 人：伊藤航
・1 月 16 日(土)：松川第一仮設住宅：6 人：後藤誠智
・1 月 30 日(土)：安達運動場仮設住宅：7 人：高橋航平
・2 月 28 日(日)：大野台第六仮設住宅：3 人：鈴木悠平

親睦会・交流会

・5 月 9 日(土)：北幹線第一仮設住宅：17 人：戸浪今日子
・5 月 27 日(水)：安達運動場仮設住宅：12 人：高橋航平
・7 月 5 日(日)：大野台第六仮設住宅：9 人：畠山幸一
・8 月 24 日(月)：藤田駅前仮設住宅：3 人：町田英恵
・10 月 21 日(水)：安達運動場仮設住宅：2 人：片瀬俊一
・2 月 15 日(月)：藤田駅前仮設住宅：5 人：菅野勇希

【参加者の声】

○小島 望（人間発達文化学類 3 年）

今年の夏は天候に恵まれた日が少なかったですが、そんな夏のひとときを仮設住宅の方と楽しむことができました。例年に比べ住民の数が減っていると感じる仮設が多く互いにさみしさもありましたが、そうした中でも今までのつながりを感じながら住民の方と一緒に焼き鳥を焼いたり、かき氷を食べたりなどしました。「普段こんないいもの食べれねえなあ」「みんなで過ごすのはいいなあ」という住民の方の声を聞くことができ、私としてもこの活動に参加したことへのやりがいを感じることができました。

毎年何気なく日々を過ごす中で季節の訪れを感じることが少ない、という方が多く見られます。そういった中で季節のイベントを行うことは仮設住宅に活気をもたらし、いつもとは違う日常を感じることができるというよい面があると思います。今後も近い関係にいるからこそできる活動を展開していけるとよいなと思いました。

○本多 礼諭(人間発達文化学類 3 年)

私は北幹線第一仮設住宅で行われた親睦会に参加した。仮設住宅でのボランティアの経験が多くない私にとって貴重な体験となったことを覚えている。親睦会では、たくさんの笑顔が見られた。芋煮やビンゴなどの企画をともに行うことでこんなにも笑顔が溢れることに驚きであった。

また、親睦会を通して、かかわりを作っていくことの重要性についても考えさせられた。何度も仮設住宅に足を運んでいるスタッフは住民の方をよく覚えており、お互い信頼しているように思われた。震災以降のボランティアを通してつなげてきたかかわりを実感することができた。

この経験を活かし、改めて震災やボランティアの重要性を考えていきたい。

○阿部 弘輝（現代教養コース 2 年）

私は、芋煮会に参加しました。芋煮は、赤十字さんが主に作ってくださったり、

そのお手伝いとして、私たち学生が野菜を切ったり、会場の設営を行ったりしました。この芋煮を住民の皆さんは、美味しいといって食べてくれました。当日は、非常に風が強く、寒かったこともあり、大きな鍋で作った出来立ての芋煮は美味しかったのでしょう、おかわりをする方もたくさんいました。また食事と同時進行で、住民の方々と学生によるカラオケ大会が開催されました。学生がマイクをもち、歌いだすと、住民の皆さんは、笑顔で手拍子をしてくださっていました。学生の歌を聞きながら、住民の皆さんは「やっぱり学生が来てくれると盛り上がるね。」とおっしゃってくれました。

この芋煮会は、福島、東北独自の文化です。みんなが芋煮を食べながら、楽しく会話をしているのを見て、非常に心が温かくなり「改めて福島は良い所だな」という気持ちになりました。こうした人々の交流が福島の人達の、人の良さ温かみを生んでいると感じました。

震災から 5 年という月日が経過するなかで、まだまだ、たくさんの方が仮設住宅での生活を強いられるのが福島の現状です。その中では、もちろんストレスを感じることも考えられ、他の人には、決して話すことのできない不安や悩みがたくさんあると思います。私たち学生が出来ることは、住民の皆さんと話したりすることで、結果的にストレスや不安などを少しでも忘れてくれれば良いなと思います。芋煮会を通じて、普段あまり外に出ない方が笑顔を見せてくれることは非常に嬉しいことですし、住民の皆さんにとっても良い交流の場にもなったと思います。これからも、住民の人々の大切な交流の場を繋げていければと思います。

○中山 翔太（現代教養コース 2 年）

私は、杉内仮設住宅にて秋祭り～いわしろ×なみえ交流会～というイベントに参加させていただきました。具体的な活動内容は荷物の運搬や会場準備から、芋煮やおにぎりや飲み物の配膳、また、住民の方々とお話をしたりなど、大変楽しかったです。

私自身、仮設住宅での活動は初めてでしたが、住民の方たちが支え合って生きている雰囲気を直に感じてとても感動しました。また、住民の方々と話していると学生と話したい、ふれあいたいという気持ちがひしひしと伝わってきたことが印象的でした。また、演歌歌手・泰楽五郎さんのステージでは学生も前に出て踊りを真似たり、合いの手をいれるなどやってる側からしても見てる側からしても楽しいステージになったと思います。この楽しさを他の生徒にも広め、共有していければ、さらに活動が活発化するのではないかと思いました。また、機会がありましたらぜひ、参加させていただきたいと思います。

【活動写真】

<春季>　お花見会

＜夏季＞　BBQ

夕涼み会

<秋季>　芋煮会

<冬季>　　餅つき

望年会

2-2. 足湯活動(足湯＋αの活動)

【概要】

足湯活動とは、住民の方に足を湯につけてもらい、手もみをしながら会話をする傾聴活動である。

2011 年 3 月の東日本大震災以来、福島県内各地に避難所が開設された。中でも、福島県内最大の避難所となった、郡山市のビックパレットふくしまの避難所では、「FUSUSHIMA 足湯隊」が結成され、避難所での足湯活動が行われた。2011 年 5 月に災ボラが結成されると、足湯活動のノウハウが福大災ボラにも伝わり、避難所や仮設住宅での足湯活動が開始され、現在でも継続している活動である。

また、昨年度に引き続き、足湯活動に加えて、カラオケや折り紙などを一緒に行い住民の方により楽しんでもらうサロン活動も行っている。

足湯活動を通し、住民の方が抱えている問題やニーズを親身にとらえ、今後も活動していきたい。

【活動写真】

＜足湯活動の様子＞

＜足湯＋αの活動＞

2-3. 富岡町さくらサロン

【概要】

富岡町から福島市内へ避難され、市内の借り上げ住宅等へ住まわれている方々が平日の午前10時から午後4時まで集まることが出来る集会所のような場所が富岡町さくらサロン。そこへ来られる方々と四季折々のイベントや料理教室などを通して今まで交流をしていたが、今年度は北海道にともに旅行へ行くなど今までに見られなかった活動も見られた。他にも親睦会や芋煮会を行い、住民の方々と交流を図った。

【活動】

5月16日(土)	親睦会(さくらサロン)
8月27日(木)～30日(日)	北海道旅行(札幌など)
9月8日(火)	味の素料理教室(さくらサロン)
11月27日(金)	芋煮会(さくらサロン)
12月11日(金)	男の料理教室(さくらサロン)
3月15日(火)	4年生を送りだす会(さくらサロン)

【参加者の声】　三浦 恒彦（人間発達文化学類4年）

さくらサロンのみなさんとは僕が 1 年生の時からお世話になっていましたが、今年度は交流の多い1年でした。特に、夏に行った北海道旅行では、3年前に行われた活動の際に魚を北海道から送ってくださった「魚新」（魚の移動販売、加工を行っている）にお礼を言いたいとの声が住民の方から上がり、僕の帰省に合わせて一緒に行ったといういきさつがあります。そのため、ただの観光ではなく、感謝の気持ちや福島の今を伝え、富岡町のことを知っていただき、これからの繋がりも築くことのできた旅となり、実際に、その後行われた芋煮会では、サンマを送っていただくなど関係を続けることができました。新しいつながりが学生との活動を通じて生まれたことはとてもよいと思うし、このつながりを無くさぬように長い目で見た活動がこれからも求められていくと思います。

[活動写真]

魚新さんへの訪問

北海道から届いたサンマで食事会

2-4. 健康体操サロン

【活動概要】

福島大災ボラは 2014 年より、株式会社エクシングのご協力をいただき、仮設住宅において『JOYBEAT』というカラオケ体操プログラムを用いた健康体操サロンを実施している。「椅子に座りながら、カラオケに合わせて体操する」という内容で、多くの住民から喜ばれている。今年度からは、一部の仮設住宅において、この健康体操サロンが住民の方々のサークル活動の一環として定着し、住民による自主的なサロンとして実施するようになり、住民の方のサークル活動に学生が混ぜてもらうという形となっている所もある。さらに、浪江町役場との連携を強化し、健康体操サロンの実施仮設住宅はさらに広がり、多くの仮設住宅において住民の方が楽しんでおられる。この活動は、仮設住宅に住まう方々の「健康づくり」、「介護予防サポート」を目指すものであり、楽しみながら実施できるという点で非常に住民の方にとって効果がある活動だと考えられるため、震災後 6 年目を迎える来年度においても継続して実施していきたい。

【活動期間】 2014 年 11 月 29 日～継続中

【実施場所】 杉内仮設住宅、安達運動場仮設住宅、塩沢仮設住宅、
石神第二仮設住宅、笹谷東部仮設住宅、恵向仮設住宅、
北幹線第一仮設住宅、南矢野目仮設住宅、桑折駅前仮設住宅、
八方内仮設住宅、宮里仮設住宅、郭内仮設住宅

※一部仮設住宅を除き、1 ヶ月又は 2 ヶ月に一回定期的に実施している。

【協力】

・株式会社エクシング
・浪江町役場介護福祉課

【参加者の声】 高橋 航平(人間発達文化学類 3 年)

この活動の特徴として、「能動的」、「同じ時間、行動を共有できる」ということが挙げられます。「能動的」というのは、自分たち学生が住民の方に何かをさせて頂くという住民の方が「受動的」なボランティア活動ではなく、住民の方々が自ら、時には学生より率先して体操を行うという事です。この「能動性」の萌芽が顕著になっていると言えるのが、学生が今まで実施してきた体操サロンの仮設内サークル化の動きと言えるでしょう。今まで、学生が主体となって行ってきたものが、学生がいなくとも自主的に体操サロンを行おうという動きが住民

の方の「能動性」の萌芽の一端だと私は考えております。

　また、学生側の声として、「一緒に体操できるから気を張ったりしないで行えて、楽しい」というものも挙がりました。そのように、「同じ行動を共有」することで、学生と住民の方の共通項が増え、うち溶けやすくなるのだと考えております。来年度からは、仮設住宅から復興公営住宅へ移転される方が多くなると予想されるので、より一層このような活動を大切に実施していきたいです。

【活動写真】

2-5. いるだけ支援（仮設住宅拠点化生活支援事業）

【概要】

『いるだけ支援』とは、学生が仮設住宅に居住しながら(近所づき合いをしながら)、一生活者として簡易な生活支援や声掛けをし、「孤立死・関連死・自殺」をなくしていこうとする私たちの新たな取り組みである。平成 27 年度復興庁「心の復興」事業に採択され実現した。(2015 年 4 月 28 日付)

現在、仮設住宅から復興公営住宅やみなし仮設への転居、自力での住宅再建等により、仮設住宅の空室が増えてきている。また、若者世代の存在が極端に少なく、仮設住民の高齢化が進んでおり、子ども・若者の声が無く、仮設住宅には寂寞感が蔓延していることが現状である。実際に、住民の方々が寂しさや仮設住宅の生活感の喪失を感じるという声もある。そんな中、学生が仮設住宅を訪れると、若い人の声が聞こえるだけでも心が和むという住民の話も耳にする。実際に仮設住宅に住み込み、住民の方々と「時間を共有」する「寄り添い」を実現した新しい生活支援として本事業を展開した。今年度の実施仮設は一か所となっているが、今後他大学、他団体のネットワークの中でこの「いるだけ支援」を支援のひとつの形として凡庸化し、水平展開を目指す。

【目的】

・各年代の対話場面や居場所をつなぎ「世代間交流」の亘りをつくる
・学生が生活の活力づくりに手を添えることによって、居住者本人が主人公、地域づくりの参画者となれるように居住民に働きかける
・孤立死を防ぐ。(身体的・精神的・社会的)健康増進に寄与し、介護予防・疾病予防、そして関連死を防ぐ
・学生が生活者の 1 人として、仮設住民と日常交流をすることで仮設住宅の静寂観を好転化させる
・仮設住民の生活のメリハリづくりを行う
・外部との人交流を促進させる
・簡易なニーズに応える。

【期間】　2015 年 6 月 21 日～現在

【場所】　北幹線第一応急仮設住宅（入居者は浪江町民）

【ロッジングスタッフ】

第 I期：6 月 21 日(日)～9 月 23 日(水)　佐藤俊一、高橋航平
第Ⅱ期：9 月 23 日(水)～12 月 23 日(水)　三浦恒彦、加藤実可子
第Ⅲ期：12 月 23 日(水)～3 月 11 日(金)　鈴木悠平、小島望
第Ⅳ期：3 月 11 日(金)～現在　高橋航平（再登板）、佐々木翔太郎

計 7 名

【参加者】

※ロッジングスタッフからメーリングリストで参加募集をかけた活動

6 月 21 日(日)	引っ越し　13(2)名
7 月 4 日(土)	草刈り　6(2)名
8 月 16 日(日)	お盆夕涼み会　5(2)名
9 月 21 日(月)	浪江焼きそば会　11(2)名
10 月 31 日(土)	ハロウィーンパーティー　7(2)名
11 月 28 日(土)	こたつで暖会　8(2)名
12 月 19 日(土)、20 日(日)	門松作り　8(2)名+鈴木典夫教授
12 月 23 日(水)	第 3 回暖会　ラーメンの日　6(2)名
12 月 30 日(水)	年越しそば打ち　9(2)名+鈴木典夫教授
12 月 31 日(木)	年越しそば振る舞い　10(2)名
3 月 3 日(木)	ひな祭り　6 (2)名人数

※ () 内はロッジングスタッフ

【ロッジングスタッフの声】

○佐藤 俊一（経済経営学類 4 年・第 I期ロッジングスタッフ）

いるだけ支援を通して、まだまだ震災は終わっていないのだと再確認しました。実際に暮らしてみると、今までイベントなどで仮設住宅を訪問した時には会ったことがなかった人がいらっしゃることを知り、表に出てくる人ばかりではないことに改めて気づきました。本当に少しではありますが、ここで暮らしている方々の気持ちが分かるようになりました。

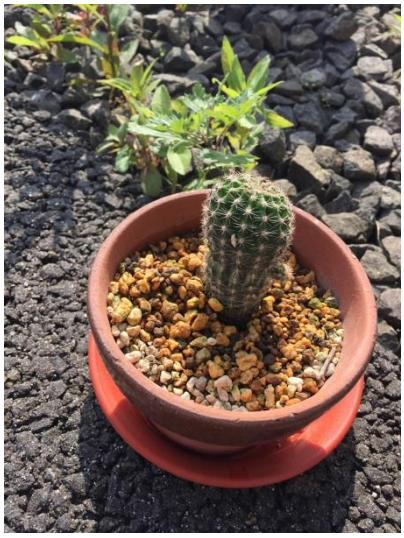
○高橋 航平（人間発達文化学類 3 年・第 I期、第Ⅳ期ロッジングスタッフ）

私が住んでいる間に復興公営住宅に移られた方の所に現在 1、2 か月に一回ほど訪問しています。初めは知り合いがいなくて寂しいと話されていたのが、また数か月後に尋ねてみると「知り合いができて散歩にいったんだー」と嬉しそうに話してくださいました。いるだけ支援では暮らしながら普通のご近所付き合いのような関係を築くことができました。これからもここで得た関係を絶やすこ

となく、関わり続けていきたいと思います。

○加藤 実可子（経済経営学類３年・第Ⅱ期ロッジングスタッフ）
　実際に仮設住宅から大学に通うようになって初めは生活のリズムがつかめず苦労しました。ですが徐々に慣れ、住民の皆さんとの日々の関わりを純粋に楽しめるようになったと思います。ふと何気なく頼ってもらえた時は力になれているのかなと嬉しくなりました。また私たち学生が何かしようとしている時にスッと手を差し伸べて手伝ってくださる方が増えてきた印象です。今後、福島だけでなく様々なところへ”いるだけ支援”が広がっていってほしいと思います。

【活動写真】



【備考】いるだけ支援についてはより詳細な事業報告書を別途作成する。

2. 帰還地域でのニーズ対応、コミュニティづくり活動

3-1. 田村市都路地区の人事交流事業

（「学生 DASH 村（仮称）」or「村民夢ロマン構想（仮称）」）

【概要】

2014 年 4 月に避難指示解除準備区域が解除された田村市都路地区では、帰還する人が少なく、コミュニティの賑わいも失われている。そこで、若い人や外からの人の入りによって、賑わいだけは取り戻したいという都路地区の人々の声に応えていくために、地区住民を棟梁にし、新しい農作物の作付けに挑戦したり、小屋づくり（ゲストハウスなど）をしたり、生き物が暮らすスペースづくりをする見込みだ。

今年度は福島大学の学生が都路地区でこれから活動していく上での、住民との交流を進めており、サロン活動や地域活動に参加した。そして、来年度から本格的に始動していく予定である。

【活動日時・活動名・活動人数】

11 月 4 日(水)　都路ふれあいサロン：4 人
11 月 29 日(日)　元気な都路町民交流会：8 人
12 月 13 日(日) 初冬の都路、一年を締めくくる都路 CLEAN UP 大作戦！：2 人
1 月 6 日(水)　都路ふれあいサロン：4 人
2 月 20・21 日(土・日)　雪になんかには負けねぇぞ！
新年一発目！！パイプハウス撤去大作戦:4 人

【場所】　田村市都路地区など

【協力】

・田村市復興応援隊
・一般社団法人ふくしま連携復興センター
・NPO 法人コースター

【参加者の声】　佐々木 玲南（人間発達文化学類 1 年）

私は災害ボランティアの活動として健康体操に参加し、とても多くのことを学べたと思っています。仮設住宅や集会所へお邪魔して、みんなで身体を動かすことで運動不足の解消だけでなくコミュニケーションがとりやすくなった感じがしました。体操の中では本当にみなさん楽しそうにしている方が多く、自分が

逆に元気をもらうことも多くありました。まなさんから若い子が来てくれると嬉しいであったり、本当にありがとねと言って頂いて自分が大きなことをしたわけではないけれど、少しでも何かの手助けになっているのかなと感じることも出来ました。自分自身、何ができるかがよくわかっていない中でこういった活動に参加出来て、現状やみなさんの思いなどを少しずつ聞くことが出来たので、良い経験だったと思います。今後も積極的に活動に参加していくことで関係を深めていけるよう頑張っていきたいです。

【活動の写真】

サロン活動の様子①

サロン活動の様子②

元気な都路町民交流会

ボランティア作戦の様子①

ボランティア作戦の様子②

ボランティア作戦の様子③

4. 福島の子どもたちの健全な交友づくりサポート

4-1. 第3回「集まれ！ふくしま子ども大使」

【概要】

一昨年から引き続き行われている活動であり、今年で 3 回目となった。震災から 4 年が経ち、ストレスを感じる環境の中にいる子どもがたくさんいる一方、震災に対しての風化は進んでいると感じている。そこで、福島の子どもたちの健全な交友づくりをサポートするとともに、全国の子どもたちとの交流を図りながら、福島を含めた全国の子どもたちに福島の現状・良さや楽しさを伝えることを目的に開催している。

安全面を考慮してキャンプ地は会津地方とし、各活動場所の放射線量を事前に測定した。

また、この活動は、アサヒグループホールディングスと JTB 東北の方々にも協力をしていただいた産学共同プロジェクトである。

【活動期間】

8 月 16 日(日)～8 月 20 日(木)　4 泊 5 日

【活動場所】

活動場所：会津若松市内
宿泊施設：リステル猪苗代

【協力・共催】

・アサヒグループホールディングス(株)
・JTB 東北法人営業郡山支店
・リステル猪苗代
・会津若松市内の観光施設
・大熊町扇町仮設住宅、大熊町松長近隣公園仮設のみなさん

【活動人数】

＜学生スタッフ＞
福島大学 13 名、明治大学 2 名、関西大学 2 名、学習院大学 1 名、岡山理科大学 2 名鹿児島大学 2 名　（計 22 名）

＜参加者＞
福島 27 名、関東 5 名、関西 6 名、四国 4 名　（計 42 名）

【内容・行程】

●1 日目

移動

はじめましてのつどい

●2 日目

仮設住宅訪問（大熊町扇町仮設住宅、大熊町松長近隣公園仮設住宅）

会津観光（飯盛山散策、あかべこ絵付け体験、鶴ヶ城見学）

BBQ

●3 日目

各班フリータイム

学生企画ウォークラリー

飯盒炊飯・カレー作り

キャンプファイヤー・花火

●4 日目

遊覧船観光

カヌー体験＆パノラマゴンドラ

さよならの集い

●5 日目

移動

【参加小学生の感想】

《参加者からの作文より》

・福島／小 5 女子

子ども大使になった思い出はたくさんありました。一日目の思い出は、はじめましての集いでたくさんの子と会って友だちになったことです。たくさんの友だちができてうれしかったです。二日目の思い出は、赤べこ絵付け体験で、赤べこを、絵付けしたことです。赤べこを上手に得付けして上手に出来てよかったです。三日目の思い出は、カレー作りでおいしいカレーを食べたことです。みんなで作ったのでおいしかったです。また、みんなでカレーを作って食べてみたいです。四日目の思い出は、カヌー体験です。最初は、上手にこげなかったけど、楽しかったです。五日間、とっても楽しい思い出をたくさんありがとうございました。このような機会があったらまた参加します。五日間ありがとうございました。

・関東／小６男子
　ぼくは福島が好きになりました。これからも他の人々に福島の良い所を広めていきたいと思います。また、ぼくにとってこの五日間はとてもいい思い出になりました。けれども、それ以上に思い出になったのは、全国の人々と友達になれたことです。このふくしま子ども大使のおかげで、知っている福島とはまた違う福島県を知ることができました。また、楽しい思い出にもなりました。ありがとうございました。

・関西／小４女子
　私は福島子ども大使に参加したのは２回目でした。一番楽しみだったのは、カヌー体験と各班事のフリータイムです。理由はカヌー体験は去年は悪天候だったのでできなかったからです。フリータイムはふれあい広場へ行きました。モルモットがすごく可愛いかったです。　毎日の朝・昼・夜のごはんはとてもごうかでおいしかったです。学生の人全員、やさしくて、おもしろかったから一生はなれたくないなと思いました。今年の曲は「ＯＬＡ！」という曲で去年はゆずの曲だったから、１回目の曲はなんだったんだろうと思いました。４泊５日、とても楽しかったです。また来年も参加したいです。

【参加者の声】
○原野　貴大(明治大学２年)
　今回、私はふくしま子ども大使に参加させてもらいましたが、これまではこのような責任を持ったことがなく、しっかり引率できるのか不安がこのイベントに行く前はありましたが、子ども達と楽しみ、イベントを無事終了することができました。今回、このイベントのおかげで子ども達も成長することができたと思いますが、また、私も大人としての成長をすることができたのではないかと感じました。今回、福島子ども大使に参加させてもらいよかったと思います。

○市川　真也(岡山理科大学２年)
　今企画は、全国から 42 人もの子どもが集まるという大きな企画でした。企画の中で、被災地の方の話を直接聞く機会がありました。テレビで震災の話を聞くよりも実際に被災地の方から直接話を聞くのは、現実的で身近な事だと感じました。子どもたちにとっても、刺激的な体験になったのではないかと思います。
　今回私も多くのことを学びました。その中でも人と人との繋がりが一番大切なのだと感じました。この企画は、数えきれない程の人たちの支えがあって、成り立っていると思います。そして、その支えのお陰で次世代を担う子ども大使を送り出していく事が出来ました。私はこの出会いに感謝しています。

この出会いを大切にして、これからの未来を創造していく仲間として一緒に活動していけたらなと思います。

○田所 貴秀(鹿児島大学 2 年)

昨年の夏に参加した福島子ども大使キャンプでのボランティアは、私にとって忘れられない思い出になっています。その五日間は子ども達だけでなく私達学生も多くの事を学びました。福島の良さはもちろん、子ども達に対する接し方も学び、他大学との交流もあり刺激にもなりました。当日は子ども達の模範になろうと、いつも以上の力で活動できました。この活動を通じて知り合った子ども達、学生、関係者は私の人生にとって大切な人たちで、これからも交流があればいいなぁと思います。

○本多 礼諭(人間発達文化学類 3 年・プロジェクトリーダー)

全国の子どもたちを福島に集め、最高の夏の思い出を作り、「ふくしま子ども大使」になってもらうこの企画は「未来の福島」を考える上で、極めて意味のある取り組みであると考える。震災による風評被害により全国的、世界的に福島に対するイメージは現在であっても決してプラスであるとは言えないのが事実である。それを受け今回の取り組みは、未来を生きる子どもたちに「福島＝楽しい場所」というイメージを味わってもらうというのがねらいである。今年は昨年より 1 泊多い 4 泊 5 日で実施し、その内容もより充実したものにした。仮設住宅見学、赤べこ作り、学生企画ウォークラリー、カヌー体験など福島ならでは且つ学生が企画する濃いキャンプであったのではないかと考える。最初は緊張していた子どもたちも徐々に慣れ、県を超えた友達を作り、心の底から楽しんでいる姿が窺えた。彼らの笑顔がこれからの日本、福島を作っていくと考えると今回のキャンプを企画、運営するスタッフの一員であれたことを改めて誇りに感じた。

【活動写真】

仮設住宅訪問

赤べこ絵付け体験

会津観光

各班フリータイム

ウォークラリー

キャンプファイヤー

さよならの集い

集合写真

4-2. 福島子ども大使 NEXT

【概要】

2012 年から過去 3 回「集まれ！ふくしま子ども大使」を開催し、全国の小学生の皆さんに福島をフィールドに様々な体験を行ってきた。震災から 5 年を迎える今年、当時小学生で現在は中学生になった子どもたちに、1 つステップアップした経験をしてもらいたいと考えた。そこで仮設住宅にホームステイし、住民の方の協力を得ながら生活し、様々な体験を通して心と心のつながりを感じてしてもらえるように、福島子ども大使 NEXT を開催した。

【目的】

①参加生徒と仮設住民(大熊町)の語り合い交流を深める。
②中学生らしい話し合いの場を設け、災害復興や未来を考える。
③中学生らしい考えや意見を尊重し、創造性と主体性を育てる。
④今の福島の現状を知り、将来の学びに活かす。
⑤中学生が仮設住宅に短期間住むことで、コミュニティの世代間の調和を図る。
⑥仮設住宅にお住まいになる方々の生活にメリハリをつくり、避難生活が長期化する中で、大熊町の方々にも「思い出」づくりとなるように努める。
⑦災害の風化抑制の一助とする。
⑧中学生が仮設住宅に短期間住むことで、この間コミュニティの世代間の調和を図る
⑨仮設住宅にお住まいになる方々の生活のメリハリをつくり、避難生活が長期化する中で、大熊町の方々にも「思い出」づくりとなるよう努める。
⑩お世話いただく大熊町の方々に感謝する

【活動日】　平成 28 年 3 月 27 日(日)～30 日(水)　3 泊 4 日

【活動場所】 福島県会津若松市松長近隣公園応急仮設住宅

【活動人数】

＜スタッフ＞

・福島大学学生　14 名
・福島大学行政政策学類　鈴木典夫教授
・JTB 東北法人営業郡山支店　増子敦さん、高橋雄司さん、河村菜乃さん
他 3 名

＜参加中学生＞
16 名(千葉 2 人、京都 2 人、高知 10 人、熊本 2 人)

【協力】
・アサヒグループホールディングス(株)
・株式会社 JTB 東北法人営業郡山支店
・大熊町松長近隣公園仮設住宅のみなさん

【日程】

〇1 日目
移動
ウェルカムパーティー

〇2 日目
仮設住宅フラワー大作戦
会津観光
お母さん直伝お料理作り

〇3 日目
餅つき大会
大熊鍋グランプリ
お別れセレモニー

〇4 日目
お別れの会
移動

【参加中学生の感想】

〇千葉県／中 1 男子
僕はこの 4 日間で、一カ月分の思い出が一気にできたくらい、たくさんの思い出が出来ました。1 日目、緊張しながらもウェルカムパーティーは、意外にもみんなと話すことができました。2 日目、フラワー大作戦では、植木鉢を置く台を作りました。木材を電動ドライバーで組み合わせる時、仮設の方と少しお話ができました。夜、3 日目の鍋は、2，3 班合同なので、一緒に話し合いました。その後、4 人でまくら投げをしました。とても仲良くなれました。
3 日目、大熊鍋グランプリでは、みんなが繋がっていられるようにと願いをこめて、4 人の出身地と福島の名産を鍋に入れました。4 日目、4 日間過ごした部屋に感謝の気持ちを込めて掃除をしました。仮設を出発し、新幹線に乗りました。4 日間過ごした友に別れを告げて帰りました。

〇京都府／中 1 女子
福島は前回の大使で 2 回目だけど、やっぱりはじめは不安な気持ちでした。1 日目は緊張して、あまり部屋の人としか話せなかったけど、大学生の人が話しかけてくれてとてもうれしかったです。でも 2 日目は部屋の人とかとよく話

せるようになったので良かったです。
　みんなで協力して作った料理はとてもおいしかったです。
　3 日目の鍋は色々な人においしいと言ってもらってとてもうれしかったです。
　この 4 日間で、色々なことを学びました。福島の現状や普段あまりやらない料理なども自分たちでしたり出来ました。今回は仮設住宅で過ごすというとても貴重な体験ができてよかったです。また機会があれば福島にきたいです。

【参加者の声】

〇深谷 怜(行政政策学類 2 年・プロジェクトリーダー)
　今回の「福島子ども大使 NEXT」（以後 NEXT）は過去 3 回にわたって開催した「集まれ！ふくしまこども大使」（以後大使）の延長線上の企画でした。当時小学生だった子どもたちが中学生になり、少し大人になった立場で 3.11 から 5 年を迎えた福島の今を感じ取ってほしいという思いからスタートしました。中学生らしい学びは何なのか考えれば考えるほどに難しい問でしたが、これまで私たちが多くの活動の中で培ってきたノウハウである住民の方に寄り添うということをこの企画の中心に据えました。これまでの大使とは内容が大きく異なり、災害ボランティアセンターとしても初めての試みとなり、準備の段階でたくさんの課題があったことが印象深く残っています。今回は、参加した子どもたちのためだけの企画ではなく、松長仮設住宅に住まわれている方々の思い出作りも重要な目的でした。地震なんかなければ良かったことは変わらない。でも現実に避難してきて何年も住んだことは事実であり、どうせならば楽しい思い出も残したいという声をいただきました。双方にとって有意義義な企画になることがポイントでした。
　NEXT 本番の 3 泊 4 日間は非常に内容の濃いものになりました。子どもたちは 6 班に分けられて空き家になった部屋で寝泊まりします。身の回りのことは全て自分で行い、朝ご飯すべて自炊します。戸惑いの色を隠せない子どもたちも見受けられましたが、時が経つにつれて楽しそうに生活していました。仮設住宅の彩のためにお花を植えたり、住民の方を含めて鍋パーティーをしたりと盛りだくさんでした。また、今回は各活動の間の時間の自由度を高く設定したため、各班ごとに思い思いの生活をしました。仮設住宅内を散歩したり、住民の方とおしゃべりを通して、住民の皆さんとコミュニケーションをとり、その中で震災の経験を聞かせていただいた子どももいました。
　中学生ということで恥ずかしさから自分の思いをうまく伝えられない子どももいました。しかし心に秘めている思いや、様々なアイディアを大学生が引き出してあげると非常に個性豊かな活動につながります。焦らず、ゆっくりと向

き合う環境をつくったことが子どもたちにとってのびのび活動できた要因だったと考えています。

NEXT はこの一度だけの活動になります。しかし、毎年開催される大使は来年度も開催予定です。多くの子どもたちに実際にふくしまの色々を体験してもらえる機会を設けていきたいと考えています。そしてそのつながりを途絶えさせず、未来へつなげていくことが大事だと、この NEXT を通して感じました。子どもに限らず仮設住宅の皆さんにもご協力いただき、サポートをいただきました。楽しい思い出を残すどころかこちらがたくさんお世話になってしまいました。今後も恒常的なつながりをもって恩返ししていきたいと感じています。

【活動写真】

ウェルカムパーティー

フラワー大作戦

会津観光

お母さん直伝のお料理作り

餅つき大会

大熊鍋グランプリ

お別れのセレモニー

集合写真

5. 子どもの力支援、子どもの発達・遊び支援

5-1. ふくしま子どもネイチャリングキャンプ 2015

【開催日時】
2016 年 8 月 19 日(水)～22 日(土)　3 泊 4 日

【場所】
小野川湖レイクショア野外活動センター
(〒969-2701　福島県耶麻郡北塩原村大字桧原字小野川湖畔)

【内容】
自然体験型キャンプ（詳細は行程を参照）

【協力】
ホールアース自然学校　福島校

【参加スタッフ】
・福島大学生　16 名
・福島大学行政政策学類教授　鈴木典夫
・ホールアース自然学校福島校 和田祐樹さん（自然体験活動インストラクター）
・熊田法子さん（看護師）

【行程】

■8 月 19 日(水)
・結団式
・火起こし対決
・バーベキュー

■8 月 20 日(木)
・トレッキング
・リバーウォーク
・料理対決

■8 月 21 日(金)
・カヌー体験
・自然素材で写真立てづくり
・オリジナルアクティビティ
・キャンプファイヤー

■8 月 22 日（土）
・流しそうめんづくり
・解団式

【助成金】
・大和証券福祉財団助成金

【参加者の声】
〇佐藤 翔太(経済経営学類 3 年・キャンプリーダー)
私は今回のキャンプでリーダーを努めさせていただきました。この「ふくしま子どもネイチャリングキャンプ」では 2015 年 8 月 19 日から 22 日にかけて、福島県内の中通り・浜通り在住、または県外で避難生活をしている小学校４～6 年生の児童を対象に、自然体験キャンプを行いました。
キャンプは自然の中での「体験！挑戦！発見！」をテーマにキャンプを通して子どもたちが成長することを目指しました。3 泊 4 日のプログラムでは特定非営利活動法人ホールアース研究所　福島事務所（ホールアース自然学校　福島校）代表の和田祐樹さんにインストラクターとしてご指導を受け賜りながら、火起こしからのバーベキュー、トレッキング、カヌー体験、自然素材で写真立てづくり、班ごとでの料理コンテスト、キャンプファイヤーなどを行い大いに自然とともに楽しむことができ、とても充実した時間を送ることができたと感じています。バーベキュー以外の食事は野菜を中心に毎回スタッフ、参加者が作った料理を自分達で配膳し大自然の中で味わいました。どのプログラムも参加者、スタッフが自然の中で、自然を通じて楽しみ、学び、成長できる良いキャンプとなり参加者からも「参加してよかった」、「来年も行なって欲しい」等の声を聞くことができ、リーダーとして心から嬉しく思いました。
また、企画から当日の運営までご指導・ご協力いただいたホールアース自然学校の和田さん、キャンプ中子どもたち・スタッフの様子を見守って下さった看護師の熊田さんに感謝申し上げます。

〇瀬尾 彩佳(行政政策学類 1 年)
私は今回このような長期間のキャンプ活動に初めて参加させていただきました。何もかもが初めての体験だったこともあり、キャンプが楽しみな気持ちと不安な気持ちの両方がありました。また何度もキャンプに参加されている先輩方のように子どもたちに接することができるかとても心配でしたが優しい先輩方はまず自分から楽しむことを教えてくださいました。大学生と小学生の子ども達ではなく、大きい子どもと小さい子どもとお互いを呼び合い一緒になって楽しむそれが今回のキャンプのモットーでした。
そして実際にキャンプに参加してみると元気いっぱいの子どもたちに負けないぐらい楽しみ、元気な大人がたくさんいました。また子どもたちも緊張する様子はあまりなく積極的にコミュニケーションを取り、キャンプを楽しむ姿が見

られました。最終日にはスタッフとの別れを惜しみ泣いてしまう子どもがいたり、また別の災害ボランティアセンターの活動に参加する約束をしたりしている様子も見られたりして子どもたちとスタッフの間での中の良さが見受けられた。今回のキャンプで得たことを活かして、今後も活動していきたい。

【協力団体より】

○和田 祐樹(ホールアース自然学校福島校・自然体験活動インストラクター)

ホールアース自然学校は、1982 年から社会運動として自然学校という活動を続けてきました。私たちは本物の自然に触れて、その豊かさも厳しさも全身で実感し、自ら物言わぬ自然からのメッセージを“自然語”として許容する体験を積み重ねることが人間の生き抜く力を引き出す命綱になると信じています。

東日本大震災の後、放射線の人体への影響を恐れ、自然との距離感が引き離されてしまった福島。そんな震災から丸 4 年が過ぎた 2015 年。福島大学災害ボランティアセンターが主催するネイチャリングキャンプは産声をあげました。

子どもたちの命を預かり、福島有数の野外環境の下でキャンプをすること。その責任がどれだけ重いことなのか。素人集団である学生が主催するこの活動の安全性をいかに確保し、どのように運営の信頼性を担保するのか。参加する子たちは何を望んでいて、大人（学生）たちの意に沿わせるだけでなく、子どもたちが自主的に活動を作り、さらに心から「楽しかった！また来たい！」と思えるキャンプとは何なのか。情熱と責任の問われる日々が始まりました。

その結果や成果は、本報告書の別稿に譲りますが、事前研修に現場下見、募集・広報・受付・活動の企画準備に前日の準備や送迎の手配、その努力すべてが当日のあの 3 泊 4 日に集約され、結果として評価へとつながっているものと思います。

現代は個の時代と言われます。そんな中で私たちは親・兄弟などを身近な“第一の大人”、日常関わることの多い学校の先生や習い事の先生、親せきなどを“第二の大人”と呼んでいます。そしてキャンプ（体験活動）や地域活動、社会教育活動の中で出会う大人たちを“第三の大人”。多様性に満ち、ときに優しく、ときに厳しく、ときに理不尽に、ときに大人げなく、子どもたちの人生に彩りを与えてくれます。大きな懐を持つ自然に抱かれながら、子どもたちにとって少し大きなお兄さんお姉さんである大学生たちが本気で企画したキャンプ。当日、120%の力で遊び、サポートする大学生と共に 3 泊 4 日を過ごすことは、子どもたちの人生の中で必ずや大きな宝物となるはず。私たち自然学校スタッフもこの活動が関わるすべての人たちにとってより大きな宝物となる一助を、これからも続けていきたいと思います。未来の笑顔のために。

【活動写真】

食事の様子

火起こし

リバーウォーク

料理対決

カヌー体験

キャンプファイヤー

流しそうめんづくり

解団式・集合写真

5-2. 福島の子どもたち日帰りリフレッシュプロジェクト

【概要】

震災から5年目を迎えた現在でも、福島県内には放射線への不安を感じている家族はたくさんいる。特に未就学児がいる家庭では、子どもの外遊びを制限するなど、子育て世代の不安は大きなものとなっている。

このような状況の中、NPO法人アースウォーカーズは、上記のような家族の支援を行ってきた。その中に、福島の子どもたちを山形県米沢市に日帰りで連れていき、自然の中でおもいっきり遊んでリフレッシュしてもらうことを趣旨とした『福島の子どもたち日帰りリフレッシュプロジェクト』がある。福島大災ボラでは、アースウォーカーズが主催するこのプロジェクトに協力し、今年度は9回参加している。

【主催】　NPO法人アースウォーカーズ

【活動日時】

第13回5月24日（日）：田植え、公園で外遊び
第14回5月31日（日）：田植え、温泉、公園で外遊び
第15回7月5日（日）：さくらんぼ狩り、流しそうめん、公園で外遊び
第16回8月30日（日）：枝豆収穫、大根種まき、カレー作り、公園で外遊び
第17回10月4日（日）：稲刈り、公園で外遊び
第18回10月10日（土）：稲刈り、公園で外遊び
第19回12月13日（日）：雪遊び、パン作り　＊(福大災ボラは不参加)
第20回1月24日（日）：雪遊び、温泉、キャンドル作り
第21回2月7日（日）：雪遊び、パン作り
第22回3月6日（日）：雪遊び、餅つき、宝探しゲーム

【参加者の声】 小倉あかり(経済経営学類2年)

このプロジェクトは日帰りの保養のため、朝早くから夕方までみんなで一緒に行動します。私がこのプロジェクトに参加して、驚かされたことは、子どもたちの体力です。子どもたちは米沢に向かうバスの中から元気いっぱいで、みんなをイスに座らせることに苦労しました。また、米沢に着いてからは外遊びが多いのですが、子どもたちはバスから降りるなり一目散に走っていきます。午後にはたくさん遊んで汗をかいた体を温泉で癒すことが多いのですが、そこでも絶えず動き続けて、結局いつも福島に戻るまで遊び尽くします。

公園や、雪の中で思いっきり遊んだり、外でご飯を食べたり、福島では心配

でできないようなことも、米沢では何も気にせず目一杯楽しめることの喜びが、子どもたちの表情から伝わってきます。来年度、この活動が続くかはまだわかりませんが、福島の子どもたちにとって必要な活動であると感じるため、また参加したいと思います。

【活動写真】

田植え

枝豆収穫

公園で外遊び

稲刈り

集合写真

5-3. 浦和レッズハートフルサッカー教室

【概要】

サッカーJ リーグの浦和レッズでは、震災後から被災地の親子を対象にした『ハートフルサッカー』を開催していたが、昨年度、コープふくしまと福島大災ボラが主催する形で福島県内でも開催されることとなった。今年度も昨年度に引き続き、コープふくしま・福島大災ボラ主催、浦和レッズ共催で行われた。

この活動では、福島の子どもたちにサッカーを通して、体を動かす楽しさを体験してもらうほか、ハートフルとあるように心を育むことを目標としており、サッカーの楽しさとともにコミュニケーションの大切さを感じてもらう。そのため、子どもたちだけでなく、保護者の方々も一緒に参加する形をとっている。ハートフルトークと題した講義では、ハートフルクラブの落合キャプテンがサッカーに限らず、スポーツを通して人としての土台づくり、思いやりといった話をしていただいた。

また、今年度は浦和レッズからの提案により、福島大災ボラと co-op ふくしま、浦和レッズの三者による活動報告会が行われた。震災直後から今までの活動の報告とともに意見交換がなされ、それぞれに新たな気づきのある有意義な場となった。

【活動日時】 2015 年 9 月 5 日(土)

【活動人数】 福島大災ボラ：8 名　コープふくしま：5 名　浦和レッズ：6 名

【活動内容】
- ハートフルサッカー教室、ハートフルトーク
- 昼食兼交流会(コープふくしまより豚汁、おにぎりなど提供)
- 福島大災ボラ、コープふくしま、浦和レッズによる活動報告会

【協力団体】
- コープふくしま
- 浦和レッズハートフルサッカークラブ
- 福島商業サッカー部有志(サッカー教室運営補助として)

【参加者の声】 森田 和人(行政政策学類 1 年)

今回初めて浦和レッズの「ハートフルサッカー」に参加させていただきました。この活動は小学生を対象とした、サッカーを通して「こころ」を育むことをテーマとした活動です。私は小中高とサッカーをしてきましたが、小学生サポートという形でプレーするということは初めての体験でした。当日は天気にも恵まれ、多くの子どもたちでグランドがにぎわったことを覚えています。こ

の活動でたくさんの子どもたちと触れ合うなかで、自分も同じく楽しむことができました。活動後には災害ボランティアセンター、コープふくししまさん、浦和レッズさんで活動報告会を開きました。その中で今の福島の状況と福島の子どもたち、そしてその子どもたちへの接し方などの意見交流をしました。自分自身こういった場所に参加するのは初めてで、今後またこういった活動があれば、積極的に参加していきたいと思うとともに、このような活動があることを周りに発信していきたいです。

【活動写真】

6. 福島元気発信活動

6-1. 天満音楽祭

【概要】

天満音楽祭とは、大阪市の天満天神界隈で 2000 年より始まった音楽祭である。これが始まった背景には、アマチュアバンド時代が忘れられないという音楽好きの人たちが集まったということと、阪神淡路大震災後に「音作り・仲間づくり・街づくり」をコンセプトに、地元企業家たちの発案したことがある。

この天満音楽祭には、音楽を通じて福島への思いや情報発信、風化防止を目的に、関西大学橋口ゼミ・深井ゼミの学生と共に参加しており、今回で 3 回目の出演となる。

【日時】 10 月 4 日(日)

【活動場所】 関西テレビ扇町スクエア
(〒531-0041　大阪府大阪市北区扇町 2 丁目 1-7)

【活動人数】 福島大学から 12 名

【発表曲について】

今年は昨年発表した「想い」に加え、福島大災ボラメンバーの自作では 3 曲目となる「僕の住む街」を演奏することになった。

「僕の住む街」は、震災直後と変わらずに大変な面がある一方、福島のいいところ、作者が福島にいたいと思ったわけを率直に曲に表したものを発表することで、県外の方にも福島のことを知ってもらいたいという想い、「難しい問題を抱えている福島」ということだけではなく、普通に暮らしている人ももちろんいて、その幸せを人一倍かみしめていける素晴らしいところでもあるんだということも伝えたいという想い等、様々な感情が重なってできた曲を発表することに重きを置いていた。

当日の演奏はグランドピアノで行い、映像と合唱とでお客さんに聴いていただいたが、演奏後に「福島がまだこんなに大変だとは思わなかった。」「自分たちはできることないかもしれんくて申し訳ないけど、君たちがこうやって頑張ってくれてるから今があるんや。ありがとう。」といった言葉をかけられた。このような声は昨年に比べても圧倒的に多く、より関心が高まっていることと、「忘れかけていたこと」を思い出すきっかけを作り出すことができたからではない

かと思う。

【参加者の声】　三浦 恒彦(人間発達文化学類 4 年)

今まで様々な方法で震災復興と向き合ってきたが、音楽を通じてというのはとても難しいことだと感じさせられてきていた。仮設住宅で演奏しても人は来ないし、自分が選んだ曲には興味はわかず、皆聞かずに話し始めてしまうことも珍しくはなかった。しかし、県外で話を交えて演奏することにより、今まで遠くに感じていたものを近くに感じ、無理だと思っていたことが、「もしかしたら自分にもできることがあるのかもしれない」と感じてくれる人が少しではあるが確実に出てきてくれた。

音楽は時に人の心に語り掛け、動かすことがある。これは人が集まるための機会としての音楽とは別に感情的なものだと思う。しかし、少なくとも涙した人の心には私たちの演奏が、言葉が残っていくのだろう。地道にこのような活動を続けていく事が、聴く人には忘れないで自分に問い直すきっかけになり、演奏する側も日々変わっていく被災地の状況やその時々の住民の方々の声や自分の感情を届けられる機会なのである。この音楽祭に参加していなければ演奏を通じて感じることがなかったかもしれない。その意味では大変貴重な機会を頂いた。

【活動写真】

7. 災害に関する他団体・企業との共同活動

7-1. 繋ぐ～KYOUTOUHOKU～（京都学生祭典）

【概要】

東日本大震災が発災した直後は、京都の学生もメディアを通して東北の現状や復旧・復興の様子を目にすることもあったが、時間が経過するとそれもほとんどなくなり、東北の現状について全く知らない学生も増えてきた。そこで、主に京都市内でオリジナル創作おどりである『京炎 そでふれ！』を披露している京都学生祭典の学生たちは「震災への理解を深め、京都の人たちに発信していきたい」という想いから、『繋ぐ～KYOTOHOKU～』というプロジェクトを立ち上げ、福島大災ボラは活動のコーディネートを担い、2013 年 5 月に初めて開催した。今回は 3 回目の開催になり、京都の学生は 90 名の参加であった。また、翌日には福島大学で災害ボランティアセンターとの交流会も行った。

【協力】 京都学生祭典実行委員会

【活動日時】 5 月 3 日(日)

【活動場所】 1 号車：笹谷東部仮設住宅、南矢野目仮設住宅
2 号車：松川第一仮設住宅、杉内仮設住宅

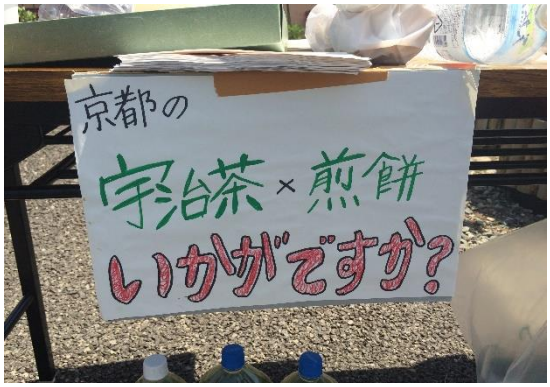
【活動人数】 福島大学：15 名　京都学生祭典：90 名　計 105 名

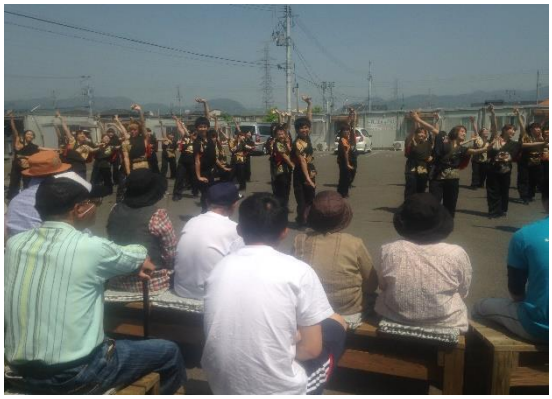
【内容】 『京炎 そでふれ！』の披露、住民との交流

【参加者の声】 手代木 巧紀(人間発達文化学類 3 年)

今回は京都の学生の参加人数が多かったので、『京炎 そでふれ！』の踊りがより一層迫力のあるものでした。そして、学生側から積極的に交流していました。特に住民の方にわかりやすく簡単に踊りを教えて、一緒に笑顔で踊る姿が印象的でした。みんなが笑顔だったのでこちらも元気が湧いてきました。福大生としてこのような場面を作る架け橋になることができてよかったです。それから、次の日の交流会も意見が活発に出ていて、両学生共に有意義な時間になりました。これからもこのような活動を大切にしていきたいです。

【活動写真】





7-2. よさこい交流会(高知大学、にぎわいボニート)

【概要】

高知大学とのつながりは、2013 年 5 月に大槻知史准教授と高知大学生が福島に訪問する際のコーディネートを福島大災ボラが行った時から始まり、同年 9 月には高知大学生 11 名が仮設住宅でのよさこい披露や高知風そうめん、カツオのたたきの振る舞いなどの『高知サロン』を開催した。

3 年目の開催となる今年度も、これまで同様、よさこいを仮設住宅で披露するなどする『よさこい交流会』を開催し、仮設住宅住民や学生との交流を図った。

なお、にぎわいボニートは今年度より高知県青年団から高知大学の学生団体となっている。

【協力】 高知大学学生団体「にぎわいボニート」

【活動日時】 2015 年 9 月 16 日(水)

【活動場所】 北幹線第一仮設住宅、上野台仮設住宅

【活動人数】 福島大学：9 名　にぎわいボニート：5 名　計 14 名

【内容】 よさこいの披露、住民との交流会、高知風そうめんの振る舞い

【参加者の声】 石郷 海友(高知大学 1 年)

今回、僕が東北を訪れて、東日本大震災によって被災した場所そのものを直接見ることができたこの経験は、僕自身の中でとても意味のあることだと実感できました。それは、自分が心の奥でずっと感じながらも実行できなかったことを、ようやく行うことができたからだと思います。

あの日、震災の実際の様子をテレビの画面から見ていた自分は、ただ見ているだけで、何もできませんでした。被害の状況が徐々に明らかになっていき、テレビの画面の奥で困っている人はたくさんいるのに、僕は何もできない。この状況と何もできない自分自身にとても憤りを感じていました。

そんな中、福島大学災害ボランティアセンターのみなさんと交流する機会ができました。共によさこいの練習をして踊りを披露し、話し合い、仮設住宅の住民の方と交流した 2 日間は、自分自身が満足することのできる内容でした。そして、なによりも、仮設住宅にお住まいのみなさんが笑顔になられたことが、とても嬉しかったです。また、仮設住宅の皆さんの元気さに圧倒される場面も多々

あり、自分たち大学生も負けないように、より活発に動いていかなければならないと感じました。このような素晴らしい機会をつくってくださった福島大学災害ボランティアセンターのみなさん、そして温かい笑顔で出迎えてくださった仮設住宅のみなさん、本当にありがとうございました。また、来年度も一緒に踊りましょう！

【活動写真】

7-3. 炊き出し活動(目に見える支援プロジェクト in 福島)

【概要】

活動を主催するボランティアグループ「目に見える支援プロジェクト in 福島」は、震災のあった年から現在まで、毎月仮設住宅での炊き出しの活動を行っている。福島大災ボラでは、その活動のサポートをしている。

毎月の献立は季節に合わせて考えられている。仮設住宅の集会所をお借りして大きなガス窯でご飯を炊き、外の大鍋でメインの料理の調理をする。仮設住宅に住まわれている方々もお手伝いに来てくださることで、和気あいあいとした雰囲気の中で作業が行われる。震災から 5 年が経つ今でも炊き出しを続ける理由として、目に見える支援プロジェクトの方々は、「忘れていないよ、というメッセージを伝えるため」と話す。

【主催団体】 目に見える支援プロジェクト in 福島 http://visiblesp.com

【活動日時・参加人数・リーダー】

4 月 26 日(日)：4 名：小島望
5 月 24 日(日)：3 名：谷井晴香
6 月 28 日(日)：2 名：谷井晴香
8 月 30 日(日)：4 名：菅野勇希
10 月 25 日(日)：4 名：谷井晴香　※いいざかバスツアー
11 月 29 日(日)：4 名：谷井晴香
12 月 13 日(日)：4 名：谷井晴香
1 月 24 日(日)：2 名：谷井晴香
2 月 28 日(日)：3 名：谷井晴香
3 月 27 日(日)：1 名：谷井晴香

※10 月の活動は炊き出しの活動ではなく、森合仮設・佐原仮設の住民の方々を招待し、飯坂温泉への日帰りバスツアーが実施された。

【参加者の声】 谷井 晴香(人間発達文化学類 3 年)

震災から 5 年が経つ今、炊き出しの活動は需要があるのかと聞かれれば、食料の支援はそれほど必要ないものとも考えられる。しかし、目に見える支援プロジェクトの皆さんが話すように、「忘れていないよ」というメッセージを伝えることこそがこの活動の大きな目的である。活動も毎月楽しい雰囲気の中で行われ、仮設住宅に住まわれている皆さんも炊き出しを楽しみにしてくれているようである。どんなものが、どんな支援が必要とされているのかを考えることもも

ちろん重要であるが、被災者の方と一緒にいる時間をもつということが何よりも大切なことであると思う。この炊き出しの活動は、活動を継続することの大切さや、人と人との絆や温かさを感じられる活動である。震災から時間が経つにつれてより一層必要となる「忘れない」という支援を、この炊き出しの活動を始め、様々な活動を通して続けていきたい。

【活動写真】

8. 登録者フォローアップ事業

8-1. 災ボラウィーク 2015

【概要】

大学内で災害ボランティアセンターの活動を発信するイベント週間である。また、登録者を増やしボランティア活動参加を促す効果の狙いもある。今年は、学内でボランティア活動を行っている団体間の交流を図るため、「Ｋｅｙ‘ｓ」「スタ☆ふく」との共同企画を実施した。

【開催日時】

・準備期間：7 月 1 日(水)～6 日(月)
・開催期間：7 月 7 日(火)～10 日(金)

【場所】

福島大学 S 棟広場、M 棟

【内容】

①声収集（学生の声）
学生が震災を経て感じたこと、現状や復興活動への思いを書いた写真の展示
②「Key’s」、「スタ☆ふく」とのパネルディスカッション
各団体が行っている活動への理解を深め、ネットワークの強化を図る
③災ボラ大年表
災ボラ発足時から現在までの活動をまとめた年表展示
④うちわ配り
⑤今後の活動予定カレンダー(7、8 月)
⑥募金集め・フリーマーケット
※今年度はネパール支援募金も実施。フリマは仮設住宅の協力を得て実施
⑦新規登録申し込み
⑧わたあめ配布(投げ銭方式)
⑨活動動画
26 年度活動まとめ編、③の際に流す

【参加者の声】　佐々木 翔太郎(経済政策学類１年)

初めての参加で戸惑うことが多かった。声収集で、最初は人を集めるのが仕事で、人を呼び込むことに苦労したけど、出来上がったものを見た時に、取り組んできてよかったと思えた。また、うちわ作りにも参加して、終わるまでがつらかったけど、配ったときに快くもらってくれて嬉しかった。フリーマーケットに来てくださった方もいて、来年も継続したいと思った。来年も参加したい。

【活動写真】

〈心の声〉

〈大年表〉

〈開催中の様子〉

〈フリーマーケット〉

9. 避難所同窓会の企画

9-1. 避難所同窓会

【概要】

東日本大震災発生後の 2011 年 3 月 16 日より、福島大学は避難所となり、浜通りを中心とする津波災害・原発災害からの避難者を受け入れた。それから避難所が閉所となる 4 月 30 日までの間、47 世帯 169 名が避難所を利用し、総計 130 名の学生が避難所運営のボランティアとして活躍した(福島大学避難所の詳細は平成 23 年度報告書を参照)。

当時の学生ボランティアは大学を卒業してしまったが、当時のメンバーが集まると「〇〇さんは元気だろうか。」「またみんなで集まりたい」とよく話題になっていた。そこで、震災から 5 年目を迎えた今年度、一つの節目として福島大学避難所に関わった方たちの再会の場を設けようと、福島大災ボラ卒業生を中心に福島大学避難所同窓会事務局を起ち上げ、『第 1 回福島大学避難所同窓会』を開催することとなった。

参加者として、当時の避難所利用者、学生ボランティア、運営に携わった福島大学教職員に声がけをし募った。また、避難所閉鎖後の福島大学生の震災復興への取り組みを紹介するという意味で、福島大災ボラのゼネラルマネージャーにも参加してもらった。

【主催】　福島大学避難所同窓会事務局(福島大災ボラ卒業生で構成)

【日時】　9 月 21 日(月)、22 日(火)

【場所】　土湯温泉　向瀧旅館
(〒960-2157　福島県福島市土湯温泉町字杉ノ下 63)

【人数】
- 福島大学避難所利用者　5 家族 9 名
- 福島大学避難所運営ボランティア　8 名
- 福島大学行政政策学類教授　鈴木典夫
- 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター職員　千明 精一
- 福島大学災害ボランティアセンターGM　菅野勇希、小島望

計 21 名

【参加者の声】 神 貴大(卒業生・福島大学避難所運営ボランティア)

今回、避難所同窓会を開催し、福島大学の避難所を利用されていた方々や大学職員、そして当時は学生であった OB・OG が集まって、当時の話や現在の状況、他愛もない話などをすることができて良かったなというのが率直な感想です。

避難所で生活していた当時は、本当に厳しい状況のなかではありましたが、その中でも、生活していく中で避難所を 1 つの家として、試行錯誤しながらも協力して生活してきました。その結果、避難されていた方々との絆が生まれ、避難所から一人ひとりいなくなってしまう際には、涙も浮かべることもありました。

その後も何人かの利用者さんとは連絡を取り合っていましたが、なかなか会う機会というのは作れずにいました。そんな中で、「いつか、また集まりたいね」という声があがり、今回、一度計画してみようということで開催となりました。

今回、開催してみて、全員集まることはできませんでしたが、参加された方々と久々に再会し、すごく有意義な時間になりました。当時は 3 歳だった子も今では小学生になっていたり、高校生が大学生になったりと、大きくなっている姿も確認でき、嬉しく思いました。ですが、今も避難生活を送られている中において抱える不安もあり、まだまだ安心して生活できる日は遠いようでした。

こういった話を聞くことができ、また、今回参加できなかった方からも「次回は参加したい」という声もあがっているので、今後も定期的に避難所同窓会を開催して、ずっと寄り添っていけたらいいなと思いました。

また、現在の学生は福島大学避難所を知らないので、OB として、伝えていく機会も作っていけたらいいなと思う機会にもなりました。

【活動写真】

10. 今年度の活動一覧

日時	活動場所	活動内容	人数	リーダー
H27年度				
4/4(土)	宮城県仙台市	住友の助成金贈呈式	2名	菅野 勇希
4月10日(金)	富岡町さくらサロン	味の素料理教室のお手伝い	2名	佐藤 俊一
4月11日(土)	笹谷東部仮設	キャンドルナイトイベント	4名	佐藤 俊一
4月15日(水)	福島大学	足湯体験会	6名	久保 香帆
4月16日(木)	東京都・復興庁	心の復興事業ヒアリング	4名	久保 香帆
4月18日(土)	国見町・上野台仮設	お花見会	9名	狗飼 小花
4月19日(日)	二本松市・杉内仮設	足湯	7名	町田 英恵
4月25日(土)	北幹線第一仮設	足湯	5名	伊藤 航
	福島県文化センター	こどもあそびば	4名	菅野 勇希
4月25日(土)～26日(日)	福島大学	子ども環境学会の運営補助	27名	伊藤 航
4月26日(日)	本宮市・石神第一仮設	足湯	6名	町田 英恵
	森合町仮設	炊き出し	4名	小島 望
	佐原仮設			
5月3日(日)	笹谷東部仮設	繋ぐ～KYOTOHOKU～	15名	手代木 巧紀
	南矢野目仮設			
	松川第一仮設			
	二本松市・杉内仮設			
5月4日(月)	浪江町、富岡町など	津波被災地視察のアテンド	4名	鈴木 典夫
	福島大学	京都学生祭典との交流会		手代木 巧紀
5月7日(木)	福島大学	浪江町役場との打ち合わせ	4名	久保 香帆
5月9日(土)	北幹線第一仮設	親睦会の前日準備	6名	戸浪 今日子
	あんざい果樹園	えがおのじかん	4名	三浦 恒彦
5月10日(日)	北幹線第一仮設	親睦会	17名	戸浪 今日子
5月13日(水)	二本松市・安達運動場仮設	健康体操サロン	3名	高橋 航平
5月15日(金)	富岡町さくらサロン	新緑会の前日準備	3名	佐藤 俊一
	福島大学	いるだけ支援打ち合わせ	2名	鈴木 典夫
5月16日(土)	富岡町さくらサロン	新緑会	9名	佐藤 俊一
	二本松市東和町	田植えイベント	2名	
5月17日(日)	桑折町・桑折駅前仮設	足湯	7名	小島 望
	国見町・上野台仮設			
5月18日(月)	二本松市・杉内仮設	健康体操サロンへの参加	2名	佐藤 しおり
5月20日(水)	福島大学	浪江町役場との打ち合わせ	3名	鈴木 典夫
5月21日(木)	Bridge for Fukushima事務所	結の場のマッチングについてのMT	3名	鈴木 典夫
5月23日(土)	笹谷東部仮設	足湯	7名	町田 英恵
	南矢野目仮設			
	福島市・こむこむ	こどもあどびば	1名	(菅野 優愛)
5月24日(日)	旧松小跡地仮設	足湯	3名	町田 英恵
	森合町仮設	炊き出し	4名	谷井 晴香
	佐原仮設			
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	11名	(望月 頌子)
5月25日(月)	北幹線第一仮設	いるだけ支援の自治会との打ち合わせ	3名	鈴木 典夫
5月27日(水)	二本松市・安達運動場仮設	お食事会	12名	高橋 航平
	福島大学	味の素との打ち合わせ	3名	佐藤 俊一
5月29日(金)	福島大学	全マネージャーMT		菅野 勇希
5月31日(日)	宮代第一仮設	足湯	5名	町田 英恵
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	7名	青木 励
6月3日(水)	福島大学	学生DASH村(仮)の打ち合わせ	4名	鈴木 典夫
6月4日(木)	本宮市・石神第二仮設	JOYBEAT設置、元気体操サロン	2名	伊藤 航
	富岡町さくらサロン	味の素料理教室		佐藤 俊一
6月5日(金)	福島大学	大使キャンプ打ち合わせ	5名	戸浪 今日子
6月7日(日)	南相馬市小高区	復興支援ボランティア	10名	佐藤 翔太
6月8日(月)	福島市内	立命館大との懇親会	3名	伊藤 航
6月9日(火)	福島大学	大使キャンプ打ち合わせ	4名	戸浪 今日子
6月10日(水)	本宮市・石神第二仮設	元気体操サロン	3名	畠山 幸一
6月11日(木)	福島大学	ネイチャリングキャンプ打ち合わせ	1名	伊藤 航
	福島大学	キャンプ説明会		戸浪 今日子
6月12日(金)～15日(月)	石川県金沢市 岡山県岡山市	大使キャンプ協力願い	4名	畠山 幸一
6月17日(水)	二本松市・安達運動場仮設	元気体操サロン	3名	畠山 幸一
6月19日(金)	福島市内	関西大学との懇親会	5名	深谷 怜
6月20日(土)	本宮市・石神第一仮設	足湯	10名	伊藤 航
	二本松市・杉内仮設		5名	町田 英恵
	田村市都路地区	打ち合わせ		後藤 誠智
6月21日(日)	宮代第一仮設	足湯	6名	町田 英恵
	南相馬市小高区	復興支援ボランティア	10名	伊藤 航
	北幹線第一仮設	いるだけ支援引っ越し	13名	久保 香帆

6月22日(月)	福島大学	都路打ち合わせ	4名	後藤 誠智
6月26日(金)	福島大学	webコンテンツ打ち合わせ	3名	高橋 航平
	未来支援センター	日和田中との足湯交流会	4名	高橋 航平
6月27日(土)	北幹線第一仮設	足湯	5名	町田 英恵
	福島市・こむこむ	こどもあどびば	3名	(菅野 優愛)
6月27日(土)、28日(日)	郡山市湖南町	ネイチャリングキャンプ事前研修	5名	伊藤 航
6月28日(日)	旧松小跡地仮設	足湯	4名	町田 英恵
	森合町仮設	炊き出し	3名	谷井 晴香
	佐原仮設			
6月30日(火)	松川支所	夕涼み会の打ち合わせ	2名	久保 香帆
7月3日(金)	郡山市	ネイチャリングキャンプ打ち合わせ	6名	佐藤 翔太
7月4日(土)	北幹線第一仮設	草むしり	6名	佐藤 俊一
	小野川湖レイクショア野外活動センター	ネイチャリングキャンプ下見	7名	佐藤 翔太
7月5日(日)	相馬市・大野台第六仮設	運動会の運営補助	9名	畠山 幸一
	北幹線第一仮設	草刈り	4名	佐藤 俊一
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	13名	久保 香帆
7月7日(火)～10日(金)	福島大学	災ボラウィーク2015		狗飼 小花
7月11日(土)、12日(日)	郡山市湖南町	ネイチャリングキャンプ事前研修	13名	佐藤 翔太
7月12日(日)	南相馬市小高区	復興支援ボランティア	5名	小島 望
7月14日(火)	福島市役所松川支所	合同夕涼み会打ち合わせ	2名	久保 香帆
7月18日(土)	松川第一仮設	あづまっぺ	7名	山形 智春
7月18日(土)、19日(日)	いわき市	コープふくしま元気応援企画	3名	大崎 直人
7月18日(土)～20日(月)	会津坂下町など	じどうかんジャンボリーふくしま	34名	深谷 怜
7月19日(日)	森合町仮設	足湯	7名	町田 英恵
	宮代第一仮設			
7月20日(月)	東京・アサヒグループ本社	こっちゃきたらいいべ	2名	小島 望
7月22日(水)	二本松市・安達運動場仮設	元気体操サロン	3名	高橋 航平
	本宮市・恵向仮設			
7月25日(土)	楢葉町	ならはバスツアー	2名	三浦 恒彦
	福島市・こむこむ	こどもあそびば	3名	鈴木 隆之
7月26日(日)	旧松小跡地仮設	足湯	3名	町田 英恵
7月27日(月)	福島市役所松川支所	合同夕涼み会打ち合わせ	2名	三浦 恒彦
7月29日(水)	山形県・プールジャバ	にしねっ子学童クラブ・園外保育	2名	菅野 勇希
7月30日(木)	山形県・プールジャバ	背の上学童クラブ・園外保育	2名	小島 望
8月1日(土)～9日(日)	南相馬市・万葉の里ふれあいセンターなど	南相馬市小高区学習支援フリースペース	4名	菅野 勇希
8月8日(土)	旧松小跡地仮設	バーベキュー	9名	畠山 幸一
8月11日(火)	二本松市・安達運動場仮設	元気体操サロン	2名	高橋 航平
8月16日(日)	北幹線第一仮設	ミニタ涼み会	4名	佐藤 俊一
8月16日(日)～20日(木)	福島県会津地方	第3回集まれ！ふくしま子ども大使	24名	本多 礼諭
8月19日(水)	安達運動場仮設	元気体操サロン	2名	高橋 航平
8月19日(水)～22日(土)	小野川湖レイクショア野外活動センター	ふくしま子どもネイチャリングキャンプ2015	16名	佐藤 翔太
8月19日(水)～22日(土)	山梨県清里高原	森の楽好 in 清里高原	3名	菅野 勇希
8月20日(水)	二本松市・安達運動場仮設	仮設住民との国際交流会	4名	加藤 実可子
8月22日(土)	旧松小跡地仮設	まつかわ・いいたて合同夕涼み会	6名	谷井 晴香
	本宮市・恵向仮設	納涼会	3名	町田 英恵
8月23日(日)	南矢野目仮設	納涼会	12名	小島 望
	旧松小跡地仮設	足湯	3名	佐藤 俊一
8月24日(月)	国見町・藤田駅前仮設	交流会	3名	町田 英恵
8月26日(水)	二本松市・塩沢仮設	元気体操サロン	4名	高橋 航平
	本宮市・石神第二仮設			
8月27日(木)	北幹線第一仮設	足湯	6名	菅野 勇希
	北幹線第二仮設			
8月27日(木)～30日(日)	北海道	富岡町さくらサロン旅行引率	4名	三浦 恒彦
8月28日(金)	大和証券福島支店	大和証券助成金贈呈式	2名	菅野 勇希
8月29日(土)	笹谷東部仮設	納涼会	10名	藤田 真慧
	コラッセふくしま	結の場	3名	菅野 勇希
8月30日(日)	森合町仮設	炊き出し	4名	町田 英恵
	佐原仮設			
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	2名	松野 栞
8月31日(月)	桑折町・桑折駅前仮設	足湯	7名	町田 英恵
	国見町・上野台仮設			
9月5日(土)	福島大学	浦和レッズハートフルサッカー教室	8名	佐々木 海都
9月6日(日)		子どもまつり	3名	本多 礼諭
9月8日(火)	富岡町さくらサロン	味の素料理教室	4名	伊藤 航
9月9日(水)	日和田中学校	日和田中との交流会	3名	伊藤 航
9月11日(金)	福島市役所松川支所	合同夕涼み会反省会	1名	久保 香帆
9月11日(金)～13日(日)	東京ミッドタウン	和紙キャンドルガーデン		佐藤 翔太
9月15日(火)	福島大学	にぎわいボニートとの交流会	6名	伊藤 航
		いるだけ支援ら一めん打ち合わせ	2名	久保 香帆

9月16日(水)	北幹線第一仮設	よさこい交流会	14名	伊藤 航
	国見町・上野台仮設			
	二本松市・安達運動場仮設	元気体操サロン	3名	高橋 航平
9月19日(土)	本宮市・石神第一仮設	足湯	7名	町田 英恵
	二本松市・杉内仮設			
	北幹線第一仮設	元気体操サロン	3名	高橋 航平
9月19日(土)～21日(月)	街なか広場	福島サンドストーリー	14名	小島 望
9月20日(日)	森合町仮設	足湯	6名	町田 英恵
	宮代第一仮設			
9月21日(月)～22日(火)	土湯温泉向瀧旅館	福島大学避難所同窓会		伊藤 航
9月22日(火)	北幹線第一仮設	なみえ焼きそば交流会	8名	佐藤 俊一
9月23日(水)	二本松市・塩沢仮設	元気体操サロン	2名	片瀬 俊一
9月24日(木)	笹谷東部仮設	元気体操サロン	3名	高橋 航平
9月26日(土)	笹谷東部仮設	足湯	6名	町田 英恵
	南矢野目仮設			
9月27日(日)	旧松小跡地仮設	足湯	4名	大橋 矢
	森合町仮設	炊き出し	1名	佐藤 しおり
	佐原仮設			
	南相馬市小高区	復興支援ボランティア	6名	伊藤 航
9月28日(月)	二本松市・杉内仮設	元気体操サロン	4名	畠山 幸一
9月30日(水)	本宮市・石神第二仮設	元気体操サロン	4名	畠山 幸一
	北幹線第一仮設	井戸端訪問	4名	久保 香帆
	福島大学	都路についてのミーティング	4名	後藤 誠智
10月4日(日)	山形県米沢市	震災芋煮会	6名	菅野 勇希
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	2名	片瀬 俊一
	大阪府吹田市・天神橋商店街	天音祭への出演	12名	三浦 恒彦
10月7日(水)	福島大学	らーめん試食会		久保 香帆
		浪江町タブレット講習会		
		全マネージャーMT		
10月10日(土)	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	4名	藤井 志穂
	福島市・こむこむ	こどもあそびば	7名	鈴木 隆之
10月14日(水)	二本松市・安達運動場仮設	元気体操サロン	2名	畠山 幸一
	桑折町・桑折駅前仮設		3名	高橋 航平
10月17日(土)	南矢野目仮設	芋煮会	12名	小島 望
10月18日(日)	国見町・上野台仮設	芋煮会	11名	狗飼 小花
	宮代第一仮設	足湯	5名	町田 英恵
10月21日(水)	南矢野目仮設	元気体操サロン	2名	畠山 幸一
	二本松市・安達運動場仮設	お食事会	2名	片瀬 俊一
10月23日(金)	本宮市・恵向仮設	元気体操サロン	2名	高橋 航平
10月25日(日)	二本松市・杉内仮設	秋祭り～いわしろ×なみえ交流会～	18名	畠山 幸一
	旧松小跡地仮設	足湯	7名	町田 英恵
	飯坂温泉花ももの湯	バスツアー	4名	谷井 晴香
10月26日(月)	北幹線第一仮設	井戸端訪問	5名	久保 香帆
	福島信用金庫本店	助成金の記者会見	2名	菅野 勇希
10月28日(水)	二本松市・塩沢仮設	元気体操サロン	3名	高橋 航平
10月29日(木)	福島市・ライブスペースC-moon	合唱曲の収録	11名	三浦 恒彦
10月30日(金)	田村市都路地区	都路地区視察	4名	後藤 誠智
10月31日(土)	北幹線第一仮設	ハロウィンイベント	7名	三浦 恒彦
	山形県米沢市・松川コミュニティセンター	そばの振る舞い	3名	菅野 勇希
10月31日(土)、11月1日(日)	福島大学	第51回福大祭での模擬店出店		吉田 傑
11月1日(日)、2日(月)	高知大学	黒潮祭での出店協力	1名	町田 英恵
11月3日(火)	二本松市・安達運動場仮設	芋煮会	10名	鈴木 悠平
11月4日(水)	田村市都路地区・上道之内集会所	都路ふれあいサロン	4名	後藤 誠智
11月7日(土)	北幹線第一仮設	芋煮会	15名	佐々木 海都
11月8日(日)	笹谷東部仮設	芋煮会	11名	深谷 怜
	旧飯野小跡地仮設	芋煮会	14名	三浦 恒彦
	旧明治小跡地仮設			武田 若菜
11月11日(水)	二本松市・安達運動場仮設	元気体操サロン	4名	片瀬 俊一
	二本松市・塩沢仮設			
11月12日(木)	いわき市	復興庁・心の復興事業中間報告会	4名	久保 香帆
11月14日(土)	福島市・こむこむ	こどもあそびば	8名	鈴木 隆之
11月18日(水)	本宮市・石神第二仮設	元気体操サロン	6名	片瀬 俊一
11月20日(金)	本宮市・恵向仮設	元気体操サロン	2名	高橋 航平
11月21日(土)	森合町仮設	足湯	7名	町田 英恵
	北幹線第一仮設			
11月21日(土)、22日(日)	郡山市・日本大学工学部	全国ボランティアフェスティバル	2名	小島 望
11月22日(日)	宮代第一仮設	カラオケ交流会	4名	町田 英恵
	旧松川小跡地仮設	足湯	6名	
11月23日(月)	ダイユエイトMAX	福島サンドストーリー	4名	小島 望
11月25日(水)	北幹線第一仮設	元気体操サロン	3名	高橋 航平
11月26日(木)	笹谷東部仮設	お楽しみ会	6名	畠山 幸一
11月27日(金)	富岡町さくらサロン	芋煮会	3名	三浦 恒彦

11月28日(土)	桑折町・桑折駅前仮設	足湯	6名	町田 英恵
	国見町・上野台仮設			
	南相馬市小高区	復興支援ボランティア	18名	後藤 誠智
	松陵中学校	中学生との交流会		深谷 怜
11月28日(土)、29日(日)	猪苗代町	FUKU×FUKUキャンプ	3名	江川 萌
11月29日(日)	森合町仮設	炊き出し	5名	谷井 晴香
	佐原仮設			
	田村市都路地区・古道体育館	元気な都路町民交流会	8名	後藤 誠智
11月30日(月)	福島市	(株)エクシングとの打ち合わせ	10名	高橋 航平
12月1日(火)	北幹線第一仮設	井戸端訪問	5名	久保 香帆
12月2日(水)	南矢野目仮設	元気体操サロン	2名	片瀬 俊一
12月5日(土)	松川第一仮設	あづまっぺクリスマス会	6名	小島 望
	野田児童センター	餅つき大会	5名	深谷 怜
12月6日(日)	本宮市・石神第二仮設	大掃除・餅つき	7名	畠山 幸一
12月7日(月)	北幹線第一仮設	ら一めんの日打ち合わせ	3名	久保 香帆
12月9日(水)	二本松市・安達運動場仮設	元気体操サロン	4名	高橋 航平
	二本松市・塩沢仮設		5名	片瀬 俊一
	福島大学	学長との懇談会	6名	久保 香帆
12月11日(金)	富岡町さくらサロン	味の素料理教室(男の料理教室)	2名	三浦 恒彦
12月12日(土)	笹谷東部仮設	大掃除	15名	小島 望
	森合町仮設		6名	菅野 勇希
	旧松川小跡地仮設		4名	佐藤 俊一
	山形県米沢市・万世コミュニティセンター	クリスマス会	8名	伊藤 航
	福島県文化センター	こどもあそびば	4名	江川 萌
	青少年会館	東北大学との交流会	9名	菅野 勇希
12月13日(日)	いわき市・泉玉露仮設	東北大学との協同活動	2名	片瀬 俊一
	いわき市・薄磯団地			
	森合町仮設	炊き出し	4名	谷井 晴香
	佐原仮設			
	新地町・舞子浜	海岸清掃	6名	佐藤 翔太
	田村市都路地区	田村クリーンアップ大作戦	2名	後藤 誠智
	茨城県つくば市・桜老人福祉センター	元気体操サロン	4名	高橋 航平
12月16日(水)	本宮市・石神第二仮設	元気体操サロン	2名	畠山 幸一
	桑折町・桑折駅前仮設		2名	高橋 航平
12月17日(木)	郡山市	復興庁・心の復興事業中間報告会	8名	久保 香帆
12月19日(土)	本宮市・石神第一仮設	足湯	6名	町田 英恵
	二本松市・杉内仮設			
12月21日(月)	二本松市・杉内仮設	元気体操サロン	4名	畠山 幸一
	北幹線第一仮設	井戸端訪問	6名	久保 香帆
12月22日(火)	笹谷東部仮設	クリスマス会	7名	小島 望
12月22日(火)～27日(日)	南相馬市・万葉の里ふれあいセンターなど	南相馬市小高区学習支援フリースペース	21名	菅野 勇希
12月23日(水)	北幹線第一仮設	ら一めんの日、健康体操サロン	6名	加藤 実可子
	二本松市・塩沢仮設	クリスマス会	4名	片瀬 俊一
	会津若松市・松長仮設	餅つき	5名	深谷 怜
12月24日(木)	笹谷東部仮設	健康サロン	4名	畠山 幸一
	FTVハウジングプラザ	親子ふれあいクリスマス会	13名	出雲 貴浩
	二本松市・安達運動場仮設	サンタクロース大作戦	5名	高橋 航平
12月27日(日)	二本松市・杉内仮設	望年会	4名	伊藤 航
12月30日(水)、31日(木)	北幹線第一仮設	年越しそば会	17名	小島 望
1月6日(水)	田村市都路地区・上道之内集会所	都路ふれあいサロン	4名	後藤 誠智
1月10日(日)	森合町仮設	足湯	6名	佐藤 しおり
1月11日(月)	北幹線第一仮設	外国人学生との交流会	3名	佐藤 翔太
1月13日(水)	福島大学	災ボラ餅つき大会2016	6名	狗飼 小花
	二本松市・安達運動場仮設	元気体操サロン	4名	高橋 航平
1月14日(木)	福島大学	いるだけ研究会	8名	久保 香帆
1月16日(土)	松川第一仮設	あづまっぺ新年会	6名	後藤 誠智
	笹谷東部仮設	足湯	6名	町田 英恵
	南矢野目仮設			
1月21日(木)	宮城県仙台市	復興庁・心の復興事業中間報告会	2名	加藤 実可子
1月22日(金)	本宮市・恵向仮設	元気体操サロン	4名	高橋 航平
	福島大学	いるだけ研究会	8名	久保 香帆
1月24日(日)	宮代第一仮設	カラオケ交流会、足湯	5名	町田 英恵
	旧松川小跡地仮設	足湯		
	森合町仮設	炊き出し	2名	谷井 晴香
	佐原仮設			
	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	5名	小倉 あかり
1月27日(水)	二本松市・安達運動場仮設	元気体操サロン	2名	伊藤 航
	二本松市・郭内公園仮設		2名	片瀬 俊一
	北幹線第一仮設	井戸端訪問	2名	久保 香帆
1月29日(金)	二本松市・安達運動場仮設	餅つき前日準備	2名	高橋 航平
	福島大学	いるだけ研究会	8名	久保 香帆

1月30日(日)	二本松市・安達運動場仮設	餅つき	7名	高橋 航平
	S-PAL5階	こどもあそびば	6名	町田 英恵
2月5日(金)	福島市・ライブスペースC-moon	PIKO LIVE		三浦 恒彦
2月7日(日)	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	1名	照井 優樹
2月11日(木)	北幹線第一仮設	足湯	10名	伊藤 航
	北幹線第二仮設	足湯		
2月12日(金)	福島大学	いるだけ研究会	8名	久保 香帆
2月13日(土)	東京・アサヒグループ本社	こっちゃきたらいいべ	5名	伊藤 航
	浪江町	被災地視察	3名	加藤 実可子
2月15日(月)	国見町・藤田駅前仮設	お料理会、足湯	5名	菅野 勇希
2月20日(土)	群馬県前橋市・弁天通商店街	前橋芋煮会2016	4名	深谷 怜
2月20日(土)、21日(日)	田村市船引町	ボランティア作戦	4名	後藤 誠智
2月21日(日)	桑折町・桑折駅前仮設	足湯	7名	狗飼 小花
	国見町・上野台仮設			
	福島県文化センター	ひまわり甲子園	3名	片瀬 俊一
2月26日(金)	日本赤十字福島県支部	日赤ユースボランティアとの交流会	18名	伊藤 航
2月27日(土)	南相馬市小高区	復興支援ボランティア	2名	後藤 誠智
	福島市・こむこむ	こどもあそびば	2名	江川 萌
2月28日(日)	宮代第一第二仮設	カラオケ交流会、足湯	6名	佐藤 しおり
	旧松川小跡地仮設	足湯		
	森合町仮設	炊き出し	2名	谷井 晴香
	佐原仮設			
	相馬市・大野台第六仮設	餅つき、カラオケ	3名	高橋 航平
	新地町・釣師浜	ビーチクリーニング	7名	藤井 志穂
3月2日(水)	二本松市・安達運動場仮設	元気体操サロン	5名	片瀬 俊一
	二本松市・塩沢仮設			
3月3日(木)	北幹線第一仮設	ひな祭り	6名	小島 望
3月4日(金)	東京都・復興庁	心の復興事業ヒアリング	4名	久保 香帆
3月5日(土)	南相馬市小高区	復興支援ボランティア	8名	後藤 誠智
	高湯温泉	ネイチャリング冬・下見	4名	伊藤 航
3月6日(日)	山形県米沢市	米沢リフレッシュプロジェクト	1名	小倉 あかり
	会津若松市	大使NEXT下見	8名	深谷 怜
3月7日(月)	北幹線第一仮設	井戸端訪問	5名	久保 香帆
3月8日(木)	東京都・有楽町	日本損保協会シンポジウム	1名	加藤 実可子
3月9日(水)	本宮市・石神第二仮設	元気体操サロン	2名	片瀬 俊一
3月14日(月)	二本松市・杉内仮設	元気体操サロン	2名	片瀬 俊一
3月15日(火)	会津若松市・松長仮設	大使NEXTの家の掃除	12名	深谷 怜
	福島大学	都路についてのミーティング	3名	後藤 誠智
3月16日(水)	南矢野目仮設	元気体操サロン	3名	畠山 幸一
	福島大学	全マネージャーMT		菅野 勇希
3月19日(土)	本宮市・石神第一仮設	足湯	4名	伊藤 航
	二本松市・杉内仮設			
3月20日(日)	郡山市	みらいへの手紙上映会	4名	高橋 航平
3月23日(水)	二本松市・郭内公園仮設	元気体操サロン	2名	片瀬 俊一
3月24日(木)	笹谷東部仮設	元気体操サロン	2名	片瀬 俊一
3月27日(日)	宮代第一第二仮設	足湯	4名	小島 望
	旧松川小跡地仮設			
3月27日(日)～30日(水)	会津若松市・松長仮設など	福島子ども大使NEXT～おうちへおいでよ～	15名	深谷 怜

11. メディア掲載履歴

〇新聞

・福島民報　2015 年 5 月 6 日(水)　　いるだけ支援特集
・毎日新聞　2015 年 5 月 9 日(土)　　いるだけ支援特集
・福島民報　2015 年 5 月 23 日(日)　　いるだけ支援特集
・福島民友　2015 年 6 月 22 日(月)　　いるだけ支援特集
・福島民報　2015 年 6 月 22 日(月)　　いるだけ支援特集
・朝日新聞　2015 年 7 月 15 日(水)　　いるだけ支援特集
・読売新聞　2015 年 8 月 24 日(月)　　いるだけ支援特集
・産経新聞　2015 年 9 月 9 日(水)　　いるだけ支援特集
・福島民報　2015 年 9 月 27 日(日)　　災ボラメンバー特集
・福島民報　2015 年 9 月 27 日(日)　　震災遺産とふくしまの記憶
・福島民報　2016 年 1 月 20 日(水)　　いるだけ支援特集
・神戸新聞　2016 年 2 月 7 日(日)　　いるだけ支援特集
・福島民友　2016 年 2 月 14 日(日)　　いるだけ支援特集
・毎日新聞　2016 年 2 月 22 日(月)　　前橋芋煮会特集
・毎日新聞　2016 年 3 月 3 日(木)　　学生ボランティアの 5 年
・おきあがり福島新聞　いるだけ支援特集

〇ラジオ、テレビ

・ラジオ局 J-WAVE　「JAM THE WORLD」
2015 年 6 月 2 日(火)　21:35～21:40（電話生出演）
・福島中央テレビ「ゴジてれ Chu!」　2015 年 6 月 29 日(月)
・NHK 福岡放送局「はっけんラジオ」　2015 年 7 月 2 日(木)
・福島テレビ「FTV みんなのニュース」　2015 年 7 月 2 日(木)
・NHK ラジオ第一「マイあさラジオ」　2015 年 7 月 4 日(土)
・NHK 仙台放送局　「ウィークエンド東北」　2015 年 7 月 11 日(土)
・福島放送「ふくしまスーパーJ チャンネル」　2015 年 7 月 23 日(木)
・福島放送「ふくしまスーパーJ チャンネル」　2015 年 9 月 22 日(火)
・福島中央テレビ「ゴジてれ Chu!」　2015 年 10 月 14 日(水)
・福島放送「ふくしまスーパーJ チャンネル」　2015 年 10 月 15 日(木)
・NHK 仙台放送局　2015 年 10 月 16 日(金)
「震災ドキュメント 2015　いるだけで何ができるんだろう？
～大学生が仮設に暮らした 3 か月間～」

・NHK 総合「目撃！日本列島」　2015 年 10 月 17 日(土)
・NHK 総合「目撃！日本列島」　2015 年 11 月 1 日(日)
・NHK E テレ　2015 年 11 月 22 日(日)
　「明日へー支え合おうー復興サポート　今こそ若い力でボランティア！」
・福島放送「ふくしまスーパーJ チャンネル」　2016 年 1 月 21 日(木)
・ラジオ FM ポコ「ゼロゼロゼットの Music Star Geo」 2016 年 1 月 27 日(水)
・NHK「NHK World」　いるだけ支援特集
・郡山コミュニティ FM
　「Lobo Lobo ラジオ 女子の暮らし研究所」　2016 年 2 月 9 日(火)
・福島中央テレビ「ゴジてれ Chu!」　2016 年 2 月 17 日(水)
・NHK ラジオ第一「山田まりやの午後のまりあーじゅ」2016 年 3 月 11 日(金)
・NHK ラジオ第一　2016 年 3 月 12 日(土)
「キャンパスライフ＠福島 SP
　　～東日本大震災から 5 年 大学生からのメッセージ～」

おわりに

ゼネラルマネージャー　小島　望
（人間発達文化学類３年）

震災が起きたとき、私は高校 1 年生の冬でした。自分の住まいである千葉県でも大きな揺れを観測しましたが、津波や原発のことは遠い世界のことのように感じていました。その後あたりまえの日々を過ごす中で「自分は何をやっているのだろう、自分にできることは何だろう」と思うようになっていきました。そして私は福島という地で人のために何かしようと志し、福島大学に入学することに決めました。私が入学し、早 3 年が経ちます。

今年度は多くの環境や関係が変化していく中で、団体として新たな挑戦や多様な取り組みに挑んだ 1 年なったと感じています。被災された方々におかれまして、最も変化を感じた面は仮設住宅の環境やそこに住まれる方のニーズの変化です。今までも私たちは中心的な活動として仮設住宅へのコミュニティ形成支援活動を行ってきました。私が 1 年生の頃から市内外多くの仮設住宅へ訪れ震災当初からの足湯活動や季節のイベント活動（夕涼会、芋煮会等）に取り組んでおり、現在も継続的な活動を行っています。しかしながら今年度は復興公営住宅や新しい居住地に引っ越しされる方がとても多く、仮設住宅の中に寂寞感や空虚な雰囲気が漂い始めていました。住民の方からも「知り合いがいなくなった」という声を聞くことが多く、やることがなくなったという声を以前にも増して聞くようになってきました。そんな中、私たちの団体が新たに始めた「いるだけ支援」をはじめ、継続的な寄り添い、かかわり合いを密に行っていくことで住民の方の心のさみしさを少しずつ緩和することができたように感じます。

一方で仮設住宅に住む方だけでなく、復興公営住宅に住む方、帰村して故郷に住む方、三者三様のニーズや課題に応えていくことの重要性が求められてきました。特に帰村住民に対しては田村市都路地区に足しげく通う中で、すこしずつ新たなつながりが形成されていったように感じています。これから徐々にコミュニティスペースを確立しながら、住民にとっての憩いの場を築きたいと考えています。津波被災現場である浜通りも徐々に制限レベルが緩和され始めていますが、実際に南相馬市小高区など現地を訪ねてみると、まだまだ生活できる故郷の姿はなく、地道にボランティアを続けている方々がいます。復興公営住宅においては今までの活動の中でつながった方のおうちにお邪魔するなど井戸端訪問を行うこともありました。今後ここでの活動のニーズがより一層増してくると考えていますが、私たち学生が仲介者となって新たな生活を始めた方々同士をつないでいきたいと考えています。

震災から 5 年目が経った今、継続的な支援をする団体が減っている現状にある中で、「忘れない」というメッセージを現地の大学だからこそしっかり発信して活動していく必要があるなと感じています。風化させてはなりません。一人ひとりができることを考えて、行動してみること。月日の流れが当時の記憶や活動の本質を見失わせがちですが、私たちはこれからも変わらず、できることを学生らしくやっていきます。

最後になりますが、私たちと一緒に活動、または私たちに対しご支援を頂きました各大学大学生、大学関係者の皆様、各種団体様、活動の広報をあらゆる面でしてくださった各メディアの皆様、災ボラの活動協力に加え、報告書作成に当たりご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。この場をお借りして、心から御礼申し上げます。

来年度もこれまでと変わらず、個人個人に寄り添った活動を展開していきたいと思います。今後とも、私たち(学生団体)福島大学災害ボランティアセンターをよろしくお願い致します。